

労働者支部聯合會及び評議會はこの暴壓と迫害に對して徹底的に抗争し、この闘争と神戸市民の市政に對する闘争、及び失業者の生活問題等と結合して活潑な闘争を展開した。

川崎造船所の大敵首問題によつて起された運動は氣違ひじみた××の中に執拗にしてためみなく長い間繼續的に戦はれた。

評議會の××は幾度となく破壊されつゝ、も亦もり返しつゞけられてゐる。

大正八年に一絲亂れぬサボターヂユを敢行したこの造船所は、我國最初の八時間制を獲得した。而して十年の歴史的大ストライキには涙を呑んで惨敗を宣言し、今また××の中に三千名の兄弟は路頭に迷ふに至つたのである。凱歌を擧げる日は何日だ！

五、森林労働者の闘争

一千萬圓持つてゐるプロレタリア

三重縣飯南郡森村は、伊勢と大和に跨がる大森林のほとりに在る。

鐵道から二十里もはなれた山奥の、僅々五百戸位の家族からなるこの部落は、時價に見積つて一千萬圓の價值ある共有林を所有してゐる。

これだけの財産を有つてゐるのだからそれを一戸當りに分配すれば部落全體が素晴しく有福な生活が出来る勘定である。然るに村民の大多数は貧乏で樵夫、炭焼、筏流し等の激しい労働に従事し、ミジメなその日暮し状態である。而も高い戸數割や、家屋税や、附加税のためにすつかり弱つてゐるのだ。

何故かうなんだらう？

それは極く少數の大金持が共有林の地上權を獨占してゐるからだ。従つて村の「共有林」は、その名目だけのことであつて凡ての利益は一切合切少數者の手中に奪はれてゐるのである。

強い封建的傳統と、村民が政治や法律に關して無智であるその隙をねらつていつの間にか、斯様な悪辣きはまる搾取の手段を合法化してしまつたのだつた。

だがしかし、森林いかに山奥なりと雖も、そして又、住民が狼や鹿と仲間の様な原始的生活をする状態であつたとはいへども、かうした不合理の中で永久に眠つてゐるわけではない。森林労働者の自覺する日は來た。階級闘争の風は吹きつけて來たのだ。

山の奥にも闘争の嵐吹く

即ち評議會所屬三重合同労働組合の同志達がはる／＼こゝを訪れ、呼びかける聲に應じて森林勞

働者約六百名は早速組合に加盟し森林支部を組織するに到つたのだ。

かくて團結力を組織し得たこの、の働者は長い間の苛酷な搾取と、暴虐な酷使とに對して抗議し闘争すべく奮然として立ち上つた。

闘争は先づ土地の大富豪堀口鶴雄に對する森林働者の労働条件改善要求——賃銀値上げ、その他三ヶ條——に端を發したのであるが、從來これ等大富豪と××な××××××××、働者を抑壓してゐた××は、都會地では想像できぬ位亂暴な壓迫を加へた。

争議團の集會を××、代表者の交渉中を全部××し、應援隊を近よらさぬ有様である。

かくの如き公然たる資本家の××××りに對して三重縣の同志は憤慨し、勞農黨支部聯合會は總動員を以て對抗した。

このストライキを契機として、黨の勇敢な動員と調査により富豪の不正行爲は暴露された。同時に資本家共が地方の村政をも亂してゐる事も發見された。

かくて、斯の如き不正の暴露と糾弾とによつて村民全體が協力し村政革新同盟の組織を持つと共に、

村有山林を村民の手に奪還せよ！

村税を地主に負擔させよ！

資本家の走狗を村から追ひ出せ！

のスローガンを掲げて全村一致協同行動に出た。

闘争は日一日と激化し、つひに隣村にまで波及した。三重縣の同志は勿論、中部地方評議會の闘士も續々繰り込み二十里の山道と樵夫姿に變裝して進軍した。

闘争は二ヶ月に亙りつひに同志數十名は檢舉された。

森林争議は、土地が不便であつたことや、××××××××恥じ知らずの狂惡なものであつた等のために充分なる勝利は得られなかつたが、この經驗は實に貴重なものであつた。

上來述べ來つた實例は甚だ簡單な筋書的なものであるが、之等の闘争の特長は工場代表者會議、工場従業員會、現場代表者會議の闘争組織による××××××若しくは××××××××××である事である。

而して、これらの闘争は單なる經濟闘争の範圍に止まらず、××××××××××と結合して戦はれてゐる事である。

從來一工場、一産業の闘争に他の工場、他の産業の働者が協力して参加する場合は、おほむね「争議應援」のスローガンに基くものであつた。

尙最終日には「汎太平洋労働組合書記局」の設置と規約を決定し、役員を選挙し、さらに會議の使命を總括する「宣言」が發表され、かくてロゾウスキーの閉會の辭、次いでインターナショナルの合唱をもつて七日間の光輝ある會合の幕を閉じた。

二、宣 言 書

右の如きプログラムをもつて行はれた汎太平洋労働組合會議は如何なる任務を遂行し如何なる事業を行はんとするか、それは同會議において決議された宣言がハッキリ示してゐる。見ることにしよう。

宣 言

太平洋岸の労働組合及び労働者諸君へ！

全世界の労働組合及び労働者諸君へ！

同志諸君！

汎太平洋労働組合會議は、五月二十日より二十五日まで、××支那の中央たる漢口において開催された。會議は、太平洋の被搾取大衆に関する一切の根本問題を討議し、決議した。かかる會議を召集せんとする

希望は、決して今日に始つたのではない。その發端は濠洲労働組合によつてなされたのであつた。だが、その代表者は、濠洲政府の旅行免狀拒絕によつて、汎太平洋會議に列席することができなかったのである。汎太平洋労働組合會議は、支那、××、ソビエト聯邦、シヤバ、××、アメリカ合衆國、イギリス、フランス等の労働組合代表者によつて開催された。

しかば、如何なる理由によつて、太平洋諸國並に太平洋に利害を有する帝國主義諸國の労働組合代表者は、かかる會議に集つたか。何が、汎太平洋労働組合書記局の結成を必要としたか。

これ等の問題に對する簡明なる回答は、會議において決定された規約中に發見される。即ち、會議で滿場異議なく採用された規約に示された汎太平洋労働組合書記局の目標と目的は、左の諸點である。

- 1、太平洋岸の諸列強相互の××の危険に對して共同の闘争を遂行すること。
 - 2、××××を脅かす××××××と抗争すること。
 - 3、太平洋の被壓迫民衆を帝國主義の支配より解放するために彼等を支援すること。
 - 4、搾取者と壓迫者の利益のために被搾取階級と被壓迫民衆をなほ分離せしむる一切の××的、國民的、境界と偏見とに闘争し、これを打破すること。
 - 5、太平洋岸諸國における被搾取階級の眞實の友愛的統一戦線を結成し保持すること。
 - 6、抑壓勢力に對抗するために被搾取階級及び被壓迫民衆の間に、共同行動を組織し遂行すること。
 - 7、世界労働組合の統一と一大統一労働組合インターナショナルの設立のために戦ふこと。
- 以上から、この會議召集の目的、並に太平洋諸國における全労働者の戰闘的聯盟に對する基礎を設立す

る意義も亦、明瞭である。太平洋岸は云はずもがな、全世界の一切の労働者は、一人として、かく列挙されたる目標と目的とに對して、如何なる方法をもつても、反對することはできないであらう。一人の労働者も、汎太平洋労働會議によつて規定され、書記局組織に對する基礎をなすところの、極めて重要なかゝる目標と目的を承認せすにはおられまい。

汎太平洋會議は、初め、廣東を會議の場所と定めた。だが、同地における反革命的クーデターのために、それは不可能となつた。また、會議には、上記の外の多くの諸國の代表者によつて参加される筈であつた。けれども、それ等の國々の労働組合は、各政府の組織的妨害のために、わが會議に代表者を送ることができなかつた。帝國主義列強は、汎太平洋會議の妨害に共同戦線を張つた。××××は代表者×××××、濠洲政府は、おそらく英國につしかれて、濠洲代表者の會議出席の許可を拒絶した。

明かに同様の理由によつて、印度労働組合代表も亦出席不能となつた。かくして、×、×、×政府は、支那反革命と共に、汎太平洋會議に反對する統一戦線を形成したのだ。しかし、他方においては、會議は、あらゆる妨害と捕縛にもかゝはらず、太平洋諸國の労働階級によつて積極的に支持された。わが會議は、開催され、重要な決議を決定し、規約を作り、書記局を創設した。その書記局こそ太平洋岸諸國の全労働者を結成する當面の任務を有するものである。

會議は、革命支那の心臓である武漢において開催された。しかし、武漢は、上海及び他の全支那港灣と同様に所謂文明列強の軍艦によつて充滿され、武漢港は英、米、×、伊、佛の戦艦と驅逐艦によつて包圍されてゐた。實に、汎太平洋労働組合會議は、××××の××の面前において、會議を行つたのである。

だが、何故、所謂文明列強の戦艦は支那の心臓に送られたか。その表面の理由は、各帝國主義政府の支那在住民の生命財産の保護といふのであるが、それが、列強によつて與へられた表面の理由に過ぎないことは明白である。何人もそれ等の在住民を支那に招待したおぼえはなく、また何人も彼等を國內に留まるやうに強制したこともない。しかも、彼等は何等脅かされても、危険に晒されてもぬいてははいか。そこには、列強在住民の實數の數倍をも超過する多數の軍艦と軍隊を派遣する何等の理由もないのだ。だが、支那海上にこれ等の軍艦を出動せしむる眞實の理由は、決して彼等の謂ふところの在留民保護ではなくて、××××××××××あることは極めて明かである。

イギリス労働者諸君。若し外國軍艦がテムズ河を上航して、議會にその大砲の砲口を向けたとした時に、諸君は何と云ふであらう。フランスの労働者諸君、若しも外國砲艦がセイヌ河を溯のぼつて、パリの街に照準したとしたら、何と曰ふであらう。アメリカの労働者諸君、若し、ニュー・ヨーク港が外國の戦艦で一杯になり、ニュー・ヨーク市街を外國軍隊が横行調歩した場合に、諸君は何と曰ふであらうか。見よ。支那のあらゆる港は各國の軍艦によつて充滿し支那市街を防塞と鐵條網によつて遮断されてゐるではないか。だが、これが、ベルサイユ和平條約前後に帝國主義者が吹聴し、今またセネパでしやべつてゐる民族自主の精神を遂行する彼等の常套手段なのだ。かゝる帝國主義者の破廉恥極まる行動は、廣汎なる××民衆のみならず、全世界の労働者の憤怒を喚起しつゝあるのだ。

かくて、汎太平洋労働組合會議は、××民衆の權利に對するかゝる侵害に對して、その態度を決定し、一致して叫んだ——××××××××××××より驅逐せよ——と。

第十六章 府縣會選舉戰と五法律獲得闘争

一、普選最初の小手調べ

選挙戦に対する労働黨の根本方針

普通選挙制による最初の府縣會議員總選挙戦は九月から十月にかけて全國一齊に（東京、沖縄、北海道を除く）行はれることになつた。期日が切迫するに従ひブルジョア諸政黨も、社民、日農、日勞の諸黨も準備に着手した。我々の支持する労働農民黨は、いち早く運動を開始した。即ち七月十五日より三日間東京に於て「府縣會選舉対策全國協議會」を開催し、更に八月十五日同地方協議會代表會議を召集した。これ等の機關によつて協議決定した根本方針は左の如し。

- 一 我黨の綱領と政策とを全面的に生きくと、しかも他の一切の黨との鋭き對立に於て全民衆の政治的自由の要求とヒツタリ結びつけねばならぬ。
- 二 黨のいゝる働きかけを眞實に確立する爲めに黨の全闘争を當面府縣議戰に集中させ全力を盡してこの契機を捉ふる事によつて階級的協同戦線黨の實をあげ大衆行動を力強く展開する能力を獲得せねばならぬ。

三 此闘争を通じて特に労働者階級及び貧農の闘争力を強め、組織上では黨の基礎たるべき工場班の確立を計らねばならぬ。

かゝる見地に基き闘争方針としては、

- イ XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXその徹底的民主化と自主化とを計ること、これに依つて府縣會普選を契機としてXXXXXXXXXXXXXXXXの政治的自由の要求を力強く對立させることが出来る
- ロ 凡ゆる層に投げ與へてゐたXXXXXXXXXXXXXXXX全綱領政策に結合し統一する事、XXXXXXXXXXXXとを全民衆の要求に結合すること。之に依つて大衆運動をXXXXXXXXXXXX、且つ之を當面の選挙戦に集中する事が出来る。
- ハ 都市に於てはXXXXXが、XXXXXXXXXXXXXXXXXに立つて戦ひ、大衆を政治的に啓蒙訓練し、之によつて黨の指導精神と大衆的基礎を確定する事が出来る。

以上の如くで労働黨はこの選挙戦を政治的自由獲得のための一闘争として戦はんとして居る。日勞黨その他の如く單に自黨員を府縣會に送るといふことに力を集中して、選挙戦を専制支配に對する闘争を目標として戦ふことを理解し得ないことに對立して、XXXXXXXXXXXXXXXX、これを選挙戦に關聯せしめて、黨の政策を宣傳浸透せんとして居り、労働階級を斯る闘争の中心部隊とし之が同盟者としてXXを参加せしめ、XXXXXXXXXXXXXXXX影響下におかんとして居る。黨はこの選挙戦を四段階に分つて、第一期は六月十五日から七月十五日迄、第二期は七月十五日

から八月十五日の第二回全國協議會迄とし、各層の日常闘争の活潑なる展開と府縣會選舉の戦闘組織の確立、選舉費用の充實、立候補宣言、等を行ひ、第三期は八月十六日より投票日迄とし、

- 一 言論文書による暴露戦の展開。
- 二 地方的全國的闘争の繼續展開。
- 三 戦後の黨への組織準備を行ふこと。

第四期戦(投票日後)の任務は、

- 一 黨の再組織——黨指導機關及び班組織の確立。
- 二 議員團の組織及びその統制機關の組織。
- 三 日常闘争の飛躍的發展と黨大會及び國會選舉の準備。

大體に於て以上の如くである。中心スローガンを示せば次の如くである。

一 ××××××××××

二 府の事は府會で決める！

三 税金は資本家、地主に出させる！

四 勞、農、無産市民は勞農黨へ！

等々である。さて、それでは左翼勞働組合評議會はこの選舉に對しどう戦つたか。

日常闘争の發展擴大へ

評議會は勞農黨の指導する府縣會選舉に黨の政策を極力支持して組合員を動員参加せしめた。例へば日本農民組合、俸給者聯盟、婦人同盟、プロレタリア藝術聯盟等と協力して「勞農黨選舉應援會」を組織し、辯士、オルガナイザー、ビラ撒き、ポスター貼りの任務に盡し又軍資金の募集に努力した。筆者は辯士隊に加はり、兵庫、大阪、三重、新潟、東京等の各地に派遣された。

評議會がこの選舉戦に於て最も力を集中した事は、選舉運動によつて闘争欲求を刺戟されつゝ、ある全勞働大衆を、之を機會に組合指導下に一層引きつける事であつた。

評議會は金融恐慌をモメントとして出發した大衆的日常闘争を更に統一し、選舉戦の進行と共に擴大激成して強力な反政府的闘争に組織せんとした。

このために採用した闘争の統一的目標は「五法律獲得闘争」であつた。

二、五法律獲得全國協議會

五法律獲得とは何か？

五法律獲得闘争とは次ぎの五つの要求を法律上の權利として要求する民主々義獲得の一環である。これを府縣會選舉の目標とすると共に、このための勞働組合代表の全國會議を勞農黨の提唱により、統一同盟が主催者となつて九月三日東京に於て開いた。當日出席した勞働組合代表者は統一

同盟加盟各組合、組合同盟關西合同、交通總聯盟有志、蒲田勞友會等、全国各地から集まる者二十九組合、その他、勞農黨、無産青年同盟、日本農民組合、婦人同盟等の代表者も來り總數七十名である。

各代表者の熱心な討論によつて決定された「五法律實施」の要求は次の如くである。

一 失業手當法

要 求

- 1 支給額は一日二圓五十錢(男女及び民族的差別なく)。
- 2 支給範圍は失業せる全賃銀労働者及び一ヶ年千二百圓以下の俸給生活者。
- 3 負擔は全部國庫負擔。

二 最低賃銀制定要求の件

要 求

- 1 支給額は一日二圓五十錢(同)。
- 2 支給範圍は全賃銀労働者及び俸給生活者。
- 3 負擔は資本金負擔、國庫保證。
- 4 労働時間は八時間制(鑛山労働は六時間制)。

三 八時間労働法制定要求の件

要 求

八時間労働制の獲得——一週四十四時間(鑛山労働は六時間労働制)——一週三十三時間(制の即時實施)
(就業中に於ける一日一時間の休養)。

四 健康保險法徹底的改正

要 求

- 1 保險料政府資本金全額負擔。
- 2 休養手當は日收全額。
- 3 藥價、治療費全額支給。
- 4 休養日數及藥價、治療費に制限を加へざること。
- 5 給付範圍は一切の疾病及負傷(公私の傷病の區別を撤廢すること)。
- 6 適用範圍は、全賃銀労働者及給料一年千二百圓以下の俸給生活者(但し失業者を含む)。
- 7 報酬(治療代)の請求手續を簡略にすること。醫藥治療代は毎月支拂。
- 8 公廳、保險組合に於ける囑託醫の撤廢。
- 9 診斷書料を保險給付とする。

五 婦人青少年労働者保護法

要 求

A 婦 人

- 1 産前産後各八週間、月経時三日の休業と手當支給、並に授乳時間の休業、深夜業禁止即時實施。
- 2 有害危険作業、坑内労働、酷使労働等の禁止。寄宿舎監禁制度及び前借年期制度の禁止、罰金制度の廢止。完全なる授乳設備及び託兒所の設置。

B 青少年

- 1 満十八歳未満青少年男女労働者の一日六時間、一週間三十三時間制の實施。
 - 2 満十五歳未満の幼年労働の禁止。
 - 3 満十八歳未満の労働者夜業殘業及び有害危険作業の禁止。
 - 4 寄宿舎費用の資本家全額負擔、労働者による自主権の確立。
 - 5 工場内學校の増設と生徒による自主権の確立並に授業は晝間とし、授業中の賃銀支給。
 - 6 入營中の賃銀全額支給及び除隊後の復職。
 - 7 年期徒弟制度の撤廢。
 - 8 一年一ヶ月の休暇並に休暇中の賃銀全額支給。
- (但し、各項を通じ青少年労働者に商店員を含む)

(以上)

尙ほ農民の當面切迫した状態に應じて「小作法制定」に関する決議案が可決された。

闘争方針

以上の要求に對する「闘争方針」に就ては次の如き手段を採用する事になつた。

實行方法

- △九月三日——十日 協議會決議案を工場代表者會議、従業員大會その他凡ゆる機會に大衆的煽動宣傳し大衆の積極的参加に努力する。
 - △九月十一日——十六日 工代會議、工從大會等に於て五法律即時制定實施の要求を決議し、勢力的宣傳週間とする事。
 - 尙、個々の工場、産業に於ては、各々の特殊的當面の要求を添加し、更に又、個々の資本家に對する闘争をこの五法案要求運動に結合して戦ふこと。
 - ▲九月十七日(土曜日)晝 従業員大會を開き五法案即時制定實施の要求を決議し直ちに代表者を擧げて、これを資本家及び政府に突きつける。
 - ▲九月十七日(土曜日)夜 晝の大會に参加せる労働者を工場から直ちに労働者大會に参加せしめる。
 - ▲九月十八日(日曜日) 示威運動を執行する。
- 次いで當日の決議事項及闘争方法を全大衆にアピールするため「全労働者諸君に訴ふ」と並に都市労働者から農民に對するアピールとして「全農民諸君に訴ふ」と云ふ聲明書が發表された。

上からの共同戦線の無力化

尙ほ、この協議會のあつた翌日「健康保險法徹底的改正」に關して労働組合代表者、醫師、藥劑

この六郷會結成以來、資本家側の鼻息は益々荒くなり、勞働者に對する壓迫はいよいよ露骨なものになつた。ほんの僅かな過失、問題にならぬ位るの事件に關しても従業員を容捨なく懲罪した。例へば或る工場では作業上段取りの都合で手待ちになつてゐる職工が「サボツてゐる」と云はれて亂暴にも殴りつけられた事があつた。又ある工場では成品を運搬する時、少しくそれに泥がついたと云ふ理由で減給處分を受けた事さへあつた。

ヒューム・コンクリート會社では何等の理由なく一人敵首された。で、組合の幹部が交渉に行くといふと「近日中に三十名首切る豫定だから一人に澤山の手當を出すわけにはいかぬ」と放言し、僅か二週間分の豫告手當だけで追拂はうとした。先づかういつた調子である。而も反動團體「睦會」の連中は従業員の中を馳け廻つて「何しろ今は×××××代だ。ストライキをやつたつて駄目だよ」等と流言し、結束を攪亂すべく運動する。

六郷會の攻勢が積極化した爲めに、いやが上にも生活破綻の危機に臨んだ勞働者は、これに對抗すべく工場懇談會、従業員大會、工場代表者會議等の組織戰術を以て戦線を統一し「六郷會撲滅週間」を定めて闘争したりして來た。かくも執拗な不斷の戦ひを繼續してゐたのだが、つひに九月一日芝浦製作所千三百の従業員が一齊にストライキを開始した。

問題の起りは、かねて會社の暴虐な仕打ちに憤慨してゐるところへ、従業員の一人渡邊福太郎君

が作業中重傷した。

之に對する會社の手當が非常に冷酷で、家族に通知したのが六時間も経過してからの事だつた。かやうな有様を見かねて動力部の従業員が「今後注意してくれ！」と云ふと、社員は「會社はかうした事に一々責任は持てぬ」と相手にしない。これを聞いた従業員は怒つて直ぐ従業員大會を開き、代表者を擧げて會社に詰問すると同時に怠業を始めた。

會社は自分の非を悟りつひに「謝罪」して此事件は解決した。ところが翌日「従業員時間中に持場を離れたのはけしからん」と云ひ、二時間半分の日給は支拂はぬ、と高飛車に挑戦した。そこで従業員は代表者を擧げて賃銀支拂の要求を出すと共に怠業をつゞけて對抗した。然し會社は頑強で従業員の交渉に對して誠意を示さず、更に攻勢に出て組合の中心分子五十九名に對し敵首の宣告をした。

この残酷きはまる處分に對して全従業員は一齊に起ちストライキを開始したのであつた。これは實に當然な成行である。

京濱地方全勞働者の持つ不平不満はつひに芝浦の兄弟によつて火蓋を切られたのであつた。尙ほ、これを契機としてこの方面の動向を知る便宜上、左の一文をよんで見よう。

關東地方××××××××報告 (第一號)

更に又、他産業労働者との會議を基礎としての五法律獲得闘争に協同すべく一路前進するのであつた。

九州に於ける大衆闘争

失業の嵐は九州の天地をも吹き荒した。

關門窯業、大里製塩は工場閉鎖、明紡、安川電気、八幡製鐵所では大減産だ。

資本金團體「九州工礦聯合會」は暴威を振つて、筑豊地方の中山小山は廢坑、鈴木三好は減産、

三菱の四坑は千餘名を街頭に投げだした。三菱長崎礦業所の石炭仲仕六百餘名はストライキを勃發した。之れに刺戟されて各所に動搖が起つた。

労働組合九州地方協議會はかゝる状態の中に生れた。こゝでも五法律獲得闘争が支持され、演説會、従業員大會、失業者大會が開かれた。九月四日から十日までを「婦人虐待反對週間」と定め、婦人労働者のための大會が開かれた。

かくて闘争の發展に伴ひ五法律の獲得要求は全労働者大衆の眞實の叫びとなり總罷業への動員参加の氣運は刻々と進んだ。

さて、以上は代表的な一部分を列記してみたわけであつて此外に澤山な闘争が起つてゐたのである。例へば名古屋では宇佐美自轉車工場のレストランをきつかけとして全市自轉車工場の代表者會議が持たれた。殊に宇佐美工場主が持つ五百軒の借家では、従業員と、借家人が協同し家賃三割値下げ要求が持ち出された。又大阪電気労働、關西電気、關東電気等の代表者會議が持たれ、婦人同盟の目覺ましい活動が行はれた。

要するに此の期に於ける凡ゆる闘争は、それがどの様に一工場の問題であつても、それをモメントとして産業別的、地域的統一闘争への發展轉化のための努力が執拗、熱心に行はれたがためであつた。

而もXXXXXXの決定は今日に於てXXしてゐる。

四、XXの抑壓を蹴つて

花本ゴムの犠牲者

五法律獲得闘争に於ける第一段階の闘争、即ち全國的、大衆的總罷業への徹底的煽動、宣傳の仕事が終ると、次には十一日より十六日までの間に於ける活動である。この期間に於ては、工場的、産業的要求と、五法律の要求を結合したる項目によつて産業的工場代表者會議、全市工場代表者會

XXXXXX。

かゝる労働者に加へられたXXXXXに對し、勞農黨は二十四日には東京神田青年會館にX
X、二十九日にはXXXX「XXXXX、政治的自由要求デー」を行つて闘争することを決めた。

我が統一同盟もこの勞農黨の提唱に應じて、暴壓反對政治的自由要求のために闘争することになつた。
五法律要求闘争はまだ終つてはゐない。我々は之を更に、政治的自由要求闘争に發展させなければなら
ぬ。

そのために、各地方同盟、各組合は、即時各工場、職場を陣地として闘争の準備をしろ！

1、二十九日正午、各工場、職場、労働者大會を開き、

2、暴壓反對、抗議を宣言、決議せよ。

3、そのために即時、宣傳、アゲーションを開始し、特にXXXXX必要を宣
傳せよ。

4、二十九日には、如何なる暴壓、迫害があるにせよ、それを決行する用意を怠つてはならぬ。

5、そのためには、あらかじめ決議文を作製してをき、XXXXX「大會と決議」を遂行する
やうにせよ。

1、要求は、

1、ストライキと團結の自由

2、言論、出版、集會、結社の自由

3、正式裁判に依らずしてXX、XX、XXXXなす一切の法令の撤廃

B、スローガンとしては、

1、ストライキに對するXXXX一切の干渉反對

2、工場内労働者集會の絕對自由

3、工場内にXXXXれるな

4、被檢者の即時釋放

C、注意——各工場に於ては、その特種的要求を前記に結合することを忘れてはならぬ。

九月廿三日

労働組合統一同盟 常任委員會

評議會はもとよりこの闘争のスローガンを支持し、この闘争の中心になつて活動した。

五法獲得闘争に於て最もXXXXX者は、暴壓反對運動に於て先頭に立つ者である。評
議會は全組織成員をあけて燃ゆるが如き熱意を以て大衆動員の重任を司つた。

かくて闘争は進行し「XX反對デー」の當日にはXXXXて物凄い勢で短XXXXXせ
られたのであつた。

尙ほ、勞農黨は、暴壓反對戦術の一つとして不當XX、不當XXに對しては徹底的な「告發」戦

ので面喰ひ、周章狼狽した。工場内には二百五十××××××配置され、従業員が二三人近寄れば直ぐ「何を話したか？」と詰問した。まるきり××××××作業場と同一である。

外部に残つた被誡首者は、それだけで争議團を再編成し前に提出した要求を固持し、裏切者の排撃を強調しつゝ、会社に迫つた。同時に工場内部へは猛烈なアジテーションを持ちかけ「組合を潰すな！ 組合を潰しては労働条件がまだく悪くなるぞ！」と激励した。そのためには××××××××××××潜り抜けて小さい會合がいくつもくも持たれた。

かくて内部と外部の完全な連絡の下に職場懇談會が開かれ、固く××××××××行はれた。

内部では、折から全國一齊に行はれる「労働調査」の××××××に対する闘争が持ち上つた。これ等の闘争を勇敢に戦ふことになり、一時疲勞して居つた連中も漸次元氣を回復した。

職場懇談會は更に職場々々の連絡委員會を組織する事によつて一層活氣を呈した。そして横暴をきはめる工場に對しては集團内行動を以て抗議し對抗するまでに至つた。

かくて活氣づいた従業員は十月中旬に至つて堂々と職場代表者會議を持つ様になり、又外部の争議團にも公然と接近することになつた。而して全従業員を再起せしめる當面のスローガンとしては

- 一 赤日課に関する問題
- 二 配當制に関する問題

三 罷業中の日給半額支給

四 反動團體の排撃

五 争議團支持

六 場長、工長の横暴に對して。等々。

以上の要求に關して詳細な説明は省略するが、要するに新制度を採用して従業員を酷使し壓迫を増大する手段であつて就中赤日課に關する不平不満は高まつてゐた。この現實の問題によつて猛烈なアジテーションが行はれたのであるが、この問題で闘争心が高まつて來た時、例の硫酸事件が勃發した。これは我國に於ける所謂「××××××」の嚆矢であつた。この事件に對し工場内に於ては場長、工長の策動が全くなくなつた。彼等は恐怖したのである。

こゝぞとばかり外部争議團は奮起し、

「九月廿五日は休戦したのだ、十月二十五日は大會を開き恨みの二十五日を記念せよ！」と煽動した、内部はその聲に應じて各職場に總會を開き大會決行の決議をした。

十月廿二日である。

争議團は従業員の歸りを待ち受けて一大宣傳を行はんと會社前の廣場へ陣取つた。

を召集する考へであつた。

そこで常任委員は、各自議案の原案を起草すべく手分けをして努力してゐたのであつた。それが大體出来上つたので、各自その原案を持ち寄り最後の討論を行ふ事になつたが、評議會本部事務所は人の出入も多く騒がしくてトテモ落着いた討論は不可能である。そこで色々考へた上で、鶴見町の港七郎君の宅を選んだ、此家は、まだ借りたばかりで××××も知られてをらぬから安全地帯であつた。

こゝで熱心な討論を行ひ大體決定を見たのは二日目の午後十一時頃だつた。

「オイ、腹がへつたな……」

「ウン、このまゝでは眠れない」

「ライスカレーでも喰つて来るか」

「よからうー」

「異議なし」

相談は決まつた、ところが、常任委員の中には電車賃だけしか持つてゐない者もあつた、誰れが幾ら持つてゐるのだから見當がつかぬので物を喰ふにしても一寸不安があつた。

「皆、財布を出せよ」

「又か!?」

「ハハ……」

「ウワツハ……」

「さあ、皆集めたら、こゝに壹圓五十錢あつたぞ、何だ君、君のはたつたこれだけか」

「なんだ、五錢ばつちでライスカレーのイニシアチブを取りやがつた」

「松尾は一圓五十錢持つてゐた。國領五錢、中村三十錢、杉浦六十八錢、私は八十錢ばかりあつた。

「ライスカレーの外にビール一杯宛のむか」

「賛成」

國領は直ぐ手を舉げた、

「反對」

松尾が嗚鳴つた。結局集まつた金は全部松尾が持つ事になつて、松尾、中村、杉浦の三人は裏口から外へ出た。國領と私は表口から外に出た。と、其處には××と××××××立つてゐる。ハッ!と思ふ瞬間、國領と私はその三人に捕つた。

「なんだい」

「なんでもい、××へ来い。お前達は今バクチを打つてゐたらう」

に應せず五時から一齊に退場し会場へ押しかけようとした。けれども亦々×××××、×××××のため、

□大會そのものは溢れる程の盛況とまではいかなかった。だが、諸種の阻止妨害を突破して集まつた従業員は一目でその決意を知り得る位緊張し殺氣を帯びてゐた。

大會は、前掲の要求を会社に叩きつけ、若し二十日までに会社がこの要求に應じぬ時は断然サボタージュを開始し、闘争を再開すると云ふ決議を満場一致可決した。

外部では、全従業員が再び引揚げた時の準備に集合詰所を借り入れ、又八方へ檄を飛ばした。

争議團の意氣は刻々あがつた。この状態に對し、も早六郷會の激勵も会社の決意を強固にする力

はなくなつた。つひに会社は我が闘争力の前に降参し、要求の大半を容れる事になつたのである。即ち、解雇者八十四名に對し手當二萬四千圓支給、争議中の日給三日分を全従業員に無期限貸與、争議費用三千五百圓支給、契約期限消滅者の再契約復職(無産者新聞第百十四號)等々。

以上は勿論要求から見て決して満足すべき程の勝利ではないが、大資本三井を敵とし、六郷會と云ふ資本家聯合を向うに廻し、而も一度は休戦するの餘儀なき運命に陥りつゝ、も再び盛り返してここに至らしめた成績は、左翼組合評議會の眞價を發揮したものと云ひ得られるであらう。

鶴見工場の組織が、この試練を経て愈々強固になつた事は云ふまでもない。

第十七章 左翼組合として完成のための努力

一、評議會最終の中央委員會

組合員へのメッセージ

評議會は一九二七年(昭和二年)五月、第三回全國大會を大阪に於て開催した。

それ以來、評議會は、既に見た如く幾多の大家動員による猛烈な諸闘争を展開してきた。而して是等の諸闘争の中に於て得たところの經驗は、云ふまでもなく豊富にして實に貴重なものであつた。

府縣會選舉闘争もやがて一段落つたのでこの際、過去に於て集積した諸經驗を一應整理して新らしい段階に於ける情勢に適應する新方針を樹立する必要に迫られてゐた常任委員會は、多忙な日常闘争の中で第二回中央委員會開催の準備をした。

ところで、その準備も整つたから愈々十一月八日、九日兩日に互り東京芝公園内協調會館に於てその會議を開く事にした。

評議會は、この翌年、即ち昭和三年四月十日、かの三・一五事件に際して、組合員中から多數の共產黨員を出したと云ふ理由で政府から解散されたのであつて、丁度その時は第四回全國大會開催

の直前であつた。だから評議會はその短命だつた全生涯のうちで、全国的な協議會を開催したのは、この第二回中央委員會が、最終、最後のものであつたのだ。

この記念すべき第二回中央委員會を前にして本部常任委員會は、組合員に對して次の如きメッセージを送つた。

「今年春の金融恐慌を一段階として、資本家階級による所謂産業の合理化は急速に進められ、労働者大衆の生活不安、失業者の増大、労働条件低下等々に對する自然發生的反抗——ストライキは各地各工場に勃發した。

しかも××××××××による彈壓は極度の生活不安に基く、××××××××の反抗を極度に迫害し蹂躪しつゝあるのだ。吾が日本労働組合評議會は、本年度全國大會に於て、新らしき觀點よりする日常闘争に對する方針、産業別的闘争、工場委員會運動、組合統一運動等々に關する具體的方針を確立し、以て金融恐慌に基く客觀的状態による労働者大衆の自然發生的不平、反抗を捉へこれを吾左翼組合の政策に依つて戦ひ、指導し來つたのである。

かくして全國大會以後、北海道小樽セネラル・ストライキ、五法律獲得闘争等々の決定的に重要な意義を有する大衆的闘争を指導し、戦ひ來つたと共に、大衆的闘争組織としての工代運動を新に展開、指導し初めたのである。而して、かかる闘争組織の過程に於て中間派右翼組合に對し、常に組合統一運動の立場よりする共同戦線をもちかけ、右翼、中間派組合大衆の間に、吾が左翼組合政策の支持者を増大せしめ

つゝある。同時に、かかる闘争の展開、指導は、吾が階級的共同戦線たる労働者による、政治的自由獲得運動を、より活潑、強力ならしめ、その發展を促進しつゝあるものと吾等は確信する。吾評議會の如上の闘争の展開は、現下の客觀的状態に開催さるべき吾が評議會第二回中央委員會をして次の如き議案の討議と、これが決定を主要任務たらしめてゐると考へる。

- 一 組合統一運動に關する具體的方針
- 二 ストライキ戦術
- 三 工代、工従運動に關する當面の任務
- 四 工場オルガナイザーの組織方針
- 五 財政問題

かくて第二回中央委員會の決議は、吾が左翼労働組合たる評議會の全運動を、飛躍的に進展せしめるところの指針となるであらう、又ならしめなくてはならぬ。

吾が中央常任委員會は、以上の如き考への下に、並に第二回中央委員會を開催し、この會議に於て審議すべき議案を決定、提出することにした。

吾が評議會所屬全國各組合員諸君！中央常任委員會は、全組合員諸君によつて選ばれたる中央委員が、來るべき中央委員會に於て審議決定するであらうところの左翼組合當面の運動に關する具體的方針に基き諸君が吾等と共に勇敢に闘争を展開し、以て未組織、右翼、中間派組合大衆を正しき方向に導くべく努力せられんことを希望して止まぬものである。(一九二七・十一月五日)

開き、こゝで重要な協議を行ひ、その後で「公式」な會合を持ち「XXXXXXでも勝手にしろ」と云ふことにした。そこで會場であるが、之は國領五一郎君の宅がよからうと決めた。この家のことは、XXXXXXはよく知つてゐた、而し、XXから此の家までは距離も遠いし便利もよくなかつた。XXXXも度々は訪ねて來ない。やはり距離は遠いに限る。

で、各地方から馳せつける中央委員を目立たぬ様にこゝへ送り込み、かくて愈々會議を始めるのだが、半合法的なこの會議を守るためには近所に往む人々に氣付かれない様にする必要があるのだ、委員の外出は一切禁じられた。だから食事は、パンと砂糖と番茶とだけで簡単に片づける外なかつた。まるで「XX」された時のやうに窮屈な會議ではあるが、その代り最も大切な言論の自由は文字通り「絶対の自由」が保證された。では會議の内容に入ることになります。

二、XXXXに行はれた中央委員會

ストライキXXの決定

先づ當日の出席者は左の如くであつた。

關東Ⅱ唐澤、港、今野、河田、南(統制委員) 山本(統制委員)

大阪Ⅱ太田、徳田、服部、澤田

神戸Ⅱ奥田、荒木

京都Ⅱ奥村 四國Ⅱ福永 北海道Ⅱ渡邊(鈴木代理)

常任委員Ⅱ野田(委員長)中村、國領、杉浦、松尾

缺席Ⅱ九州森下、北海道中尾、大阪長谷川(統制委員)

議長、野田委員長、書記、片山

議長の簡単な挨拶と、府縣會選舉及び濱松樂器爭議後仕末の報告があつて、國領君の一般狀勢報告、松尾君の財政部報告があり、これが承認されて議事に入った。

サテ、會議で最も重要な問題として第一に日程にのぼつたのは「XXXXXX」であつた。而してこの問題と關聯するところの「工代、工従に關する當面の任務」及び「工場オルガナイザーの組織方針」が同時に問題となつた。

今、その時に決定した「決議」の全文をそのまま、掲げる事にしよう。これは、討議によつて修正されたものを常任委員會が新に書き下したものである。

XXXXXXXXXXXX

(一) 第三回大會方針の具體化

何なる段階を経て發展せしめるかを、正しく認識して指導することである。

2 或るXXXXXXX起つた場合、これを模範として闘争を廣汎に激發するには、今尙XXXXXを決定してぬないXXX、争議應援に動員するが如き方法だけでなく、自らの要求を與へてXXXしなければならぬとの一應の方針は、争議の應援への動員と、自らの要求による自分の工場に對する闘争の激發とを相反する二つの方向と考へるが如き誤りを犯す傾向を生ずるに至つた。芝浦鶴見工場争議に際して、芝浦本工場を始めより鶴見工場と協力してXXXXXXXしめるやうなXXXXXを行つたが、兩工場の闘争條件の相異は遂にストライキにまで發展せしめることが出来なかつたのみならず、同じ資本家の工場であるに拘らず鶴見工場の應援に動員する事すら出来ないうで終つた。然るに最も保守的組合として知られてゐる横濱ドック工信會が評議會所屬の鶴見工場應援に憤起し寄附金を據出し代表者を派して争議團を激勵した。

自然發生的XXXXX他の工場の労働者を動員し、應援せしめることは、自らの要求に依るXXXXXの條件となり、應援への動員は、それも又闘争の一形態である。従つて應援の動員と自らの要求による闘争の激發とは、相反する二つの傾向と考ふるが如き誤りは訂正され、闘争共同の線として、地域的、産業的闘争激發の條件として取り上げるやうにしなければならぬ。

3 XXXXXと政治闘争との結合は、労働者はXXXXXに加へられたる壓迫に對する反抗に市民を協力者とするがためにXXの中へ行くのではなくXX自身の要求を掲げた地方政治闘争の先頭に立つて勇敢に戦ふことによつてXXの信頼を得、併して地方政治闘争に加へられた政治的抑壓は、必然的にXXXXXに對する闘争に共同せしめることが出来ると云ふ一應の方針を立てた。

然るに東京市従業員のXXXXXに於ては争議團は直接自治體の使用労働者であると云ふ特殊事情があるにも拘らず當時展開されたる市政革新運動に殆んど動員されなかつた。更に左翼組合の中堅工場であり、殊に八十餘日に亘つて最も弾力性のある闘争に依つてさしもの三井王國をして屈服せしめたる芝浦製作所鶴見工場千三百名のXXXXXに於ては、當時展開されたる京濱地方の政治闘争に労働者を大衆的永續的に動員することは出来なかつた。

何故か？ XXXXXXXは、労働者がストライキに勝たんとする限り戦はざるを得ない。しかも同XXXXXにも加へられてゐるのだから労働者はXXの要求を掲げて戦つてやる事によつてXXを労働者の共同者とする事が出来る。だからXXXXXの先頭に立てと、だが大衆はXXXXXけてはいけない、XXXXXによつて具體的に經驗することによつてのみ最もよく理解する事が出来るのであるから、従つて説明に依つては理解出来なかつたのである。

(三)

1 XXXXXXX、その工場に於ける不平不満等、その他の闘争發展のための條件を正確に觀察し、如何なる問題、要求をとり上げて、それXXXXXすることが最も廣汎に、直接労働者のXXXXXものであるか、その激發され、或る形態にて行はれつゝある闘争に如何なる問題、要求を重ねてXXする事が更に次の形態に、闘争を段階的に發展せしめることになるかを充分に認識して行はれねばならぬ。例を挙げれば、數名の誠首を或る工場が行つた場合、誠首反對に一般的要求を加へて一時に並列して大會を開け、要求を突き突げよ、XXXXX、XXXXX「誠首反對、誠首をするならばX

Xの手當を支給せよ」と要求せしめ、之を一般にXとして、労働者の連帯意識——XXXXXの喚起もされない、この際の手當は、よい前例をなすからなど云ふ——XXXXX對する同情とを喚起し、XXXXXの要求、賃銀値上げ、等を與へて従業員大會の開催、要求提出をなさしめるXXXX、煽動し、かくの如くして次々の要求を與へXをつみ重ね、XXXXXしめることに依つて闘争を發展せしめるが如き方法である。

XXXXXの關係及び産業的地方的情勢に應じて闘争發展の方向——XXXXX或はXXXXX又はこれらに發展せしめるべき模範としてのXXXXX等の一——を決議し、XXXXXの長短、飛躍がある。更に闘争を段階的に指導し發展せしめるためには、吾々のXXXXX大衆の自然成長性XXXXについて行はれなければならぬ。

大衆の自然成長性XXXXつくるものは、必ずしも全國的統一のもののみではない。かへつてしばしば一寸した不平不満の要求である事がある。殊に最も後れたるXXXXXつては極めて原始的なものが最もよくそれを闘争に引入れる條件となるのである。しかして労働者の経済的ストライキは何時もこのXXXXXせしめておかなければならず、又參加せしめておるのであるから一定の條件が備つてゐる場合を除き、闘争激發の最初の段階に於ては、この原始的な要求に依る宣傳煽動が重要性をもつてゐる。

かくて又、激發された闘争意識の昂る程度に適合した大衆にそのXXの形態を與へなければならぬ。そのXXXXXの例へば相談會組織が應援への動員が、従業員大會の開催が工代會議の參加等のXXXXXの條件に應じたものであるかを決定し、XXXXXを與へることによつてこの闘争を更に次の段階に發展せしめなければならぬ。而して云ふまでもなく左翼組合によるかゝる闘争の激發、指導、發展の過程は同時に工場内の組合組織の發展過程である。

2 現在の客觀的情勢のもとに於ては、必然的に起る自然發生的XXXXXの契機として採り上げればならぬ。即ち一工場に於けるXXXXX同種産業或は同一地方に於ける労働者の潜在的な不平不満を呼び起し、その闘争意識を強烈に刺戟する。XXXXX重要な條件をなすものである。我々はこの契機XXXXXならぬ。而して茲で最も重要なものは同種産業或は同一地方各工場中、未だ闘争發生の條件の充分に整はざるXX、XXXXX如何にして闘争に參加せしめるかである。

従つてXXXXX事實と一般労働者の潜在的な不平不満を結びつけ、それをXXする事に依つてXXXXXの労働者に對する勝利のための應援をなさしめなければならぬ。しかして先にも指摘したる如く、XXXXX發展の重要な初步的條件をなすものであつて、それはとりも直さずXXXXX力を強めると共に労働者の連帯觀念を植ふ付け、必然に應援に參加した労働者自身の不平不満をより鮮明にしてXXXXX立てるものである。その應援方法については一般的な寄附金募集等の必要さは云ふまでもないが、特に各職場から世話役等の名を以て事實上の代表者を選出してXXXXX、X

に歸つては闘争の生々しき事實を目撃し、闘争意識を著るしく昂めたる代表の報告などを、ゆるやかなものでもよいからXXXに於て聞かせること。XXXXXXXXに關する演説會、示威運動等に動員参加せしめることなどは最も必要なものである。この應援のために構成されたXXXは事實上の職場代表委員會となつて、後に至つても重要な役割を持ち、又これを果す事が出来るものとなり得るのである。之を要するに、この場合の應援の主要眼目は單に寄附金を集めて送ると云ふことにXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXと云ふところにある。

かくて又、闘争意識の昂る程度に應じてこの絶えざるXXXXXXXXと自らの不平不満の暴露激發とを結合したるXXを行ふことによつて、XXXXXXXXXXXXXXXXと結合して意識し茲に共同闘争を意識せしめることが出来る。

かくてXXXXXXXX當事者としての資本家、更に進んではこの資本家の加盟せる同業組合——資本家團を相手として自分自身の要求を含めたところのXXXXXXXXXXXXXXXX得る段階にまで到達するに到る。

かかる段階的XX（闘争の發展條件の成熟に伴ひ）によつて自然成長的個別的な要求をXXXXXXXXXXXX經濟XXXXXXXXとしての労働者のXXXXXXXXは、それ自身の性質として最も後れたるXXXXXXXX經濟XXXXXXXXは必然的にXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXからざるを得ない。即ちXXXXXXXXXXXXXXXXくれたる層をも政治的壓迫に對する闘争に動員参加させることの出来る客觀

的條件がある。

經濟闘争XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXるためには、如上の契機——争議に加へられたるXXXXXXXX——XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX。即ち労働者大衆をXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXることが必要である。而してXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXに對して起る労働者大衆の憤激は、單にXX反對抗議にのみにとどまるべきではなく、それはXX反對を契機としてXXXXXXXXの本體を暴露することに依つてXXXXXXXXそのものに對しての闘争、即ち言論、集會、出版、結社の自由、XXXXXXXX自由、團結權の確立等々のXXXXXXXXのための労働者自身の闘争をXXしその方向に向はしむるべく努力しなければならぬ。かくて最も後れたるXXXXXXXXをも含めてXXを政治闘争にXXすることが出来るのであつて、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX被壓迫層の大衆をXXせしめて展開されてゐる政治的自由獲得闘争に直接、經濟XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXの闘争力を強めることも出来る。而して又政治的闘争の萌芽状態にある地方に於てもこれらXXXXXXXXXXXXXXXX先頭として有力なXXXXXXXXXXXXXXXし得るのである。

かかる過程を通じて労働者大衆はXXXXXXXXXXXXXXXの必要を理解し政治闘争の舞臺に於てはXXその他廣汎なるXXXXXXXXXXXXXXX、しかも自らを先頭として勇敢に戦ふことによつてのみそれを果し得ることを理解するに至る。

かくてXXXXXXXXXXXXXXXに對する闘争、しかもその舞臺に於けるXXとの協働——自らを先頭隊とする事により——を實踐することに依つてXXXXXXXXXXXXXXXを受け容れる。即ち無産者階級のXXXXXXXXXXXXXXXのための一闘

組合より金百圓、勞農黨より十圓、勞農黨本部員より四圓二十錢、前衛藝術家聯盟有志より一圓二十錢、大阪地方評議會擴大執行委員會より七十三錢、飯石豊市氏より十圓、上森健一郎氏より十圓、等々、個人有志及び各種の會合、その他工場、職場からぞくぞく募集に應じる同志が現れた。三錢、五錢と云ふ零細も錢を積み積れば「山となる」のであつた。難波英夫氏の經營する「マルクス書房」からは、四十圓に相當するポスターの寄贈があつた。かくて此運動は、心配してゐた豫想をケトバシて優秀な成績を挙げつゝ、グン／＼と伸びて行つた。

各地方評議會、組合、大工場内には責任者が任命され持場々々で猛烈な活動を始めた。總本部では、中村義明、唐澤清八、市村光雄の三君によつて特別委員會を構成し、宣傳に煽動に大車輪の活躍である。

機關紙部を充實せよ！ 千五百圓集めるんだ！ の聲は行渡つた。

特別委員會は、かうした氣運を一層激成するために「千五百圓募集運動を我等は斯うして支持するのだ！」と云ふ題の懸賞文を募集した。左に一等當選文を掲げて見る。

工場の中あら兄弟は訴ふ！

新生命労働組合 編 演 吉 夫 生

俺達の機關紙「労働新聞」を定期發行にする爲めの千五百圓募集運動に参加せよの聲は群馬の山の中にも非常な力強さを以て起りつゝある。

「労働新聞」は俺達の新聞だ！ 俺達はどんな努力をしてもこの運動を成功させなければならぬ。見ろ！「無産者新聞」も「労働農民新聞」もこの方法で成功してゐるではないか。俺達は先に二つの新聞がこの運動を計畫した時、全組合員擧つて積極的に支持したのだ。俺達の手で成功させろ！ あらゆる會合へピラと基金袋を持ち込め！

俺達は知つてゐる。千五百圓募集運動も、たゞ單に是丈けに止めてはいくら聲をからして叫んでも決して成功する事は出来ないんだ。日常闘争の交互關係に於てのみ意義がある。

俺達は此の運動を職場の中へ進める事によつて、より一層發展させる事が出来るのだ。今桐生の同志達は此の運動を未組職工場の中へ進めてゐる。いま迄彈壓と迫害の中を「女工諸君に訴へる」一切の不平の相談を評議會へ「團結せよ」のピラを果敢に持ち込んで戦ひつゞけて來たが、何時も多かれ少かれ技術的に失敗して來た。けれども、今日千五百圓募集のピラを持ち込んでそれは僅かな金ではあるが、ホントウに少ない收入の中から、涙の出る様な言葉と一緒に女工さんのポケットマネーをまとめる事が出來た。現に某織物工場では、百餘名の男女工の中組合員は僅か一名しか居ないが、一圓數十錢の基金を獲得する事が出來て、今ではそれを契機としてドシ／＼組織運動がすゝめられてゐる。

全評議會の組合員諸君、諸君も過去の不充分だつた闘争を批判した事であらう。現實に左翼労働組合の基礎が一應確立されたと言はれてゐるが、まだ／＼不充分だ。都會に、鐵山に、海に、生活の破綻による労働者の

も之に基いて運動を進展せしめる事。

(イ) 評議會本部から統一運動に関する全国的にアゲのピラを撤布して形勢を促進せしめる事。(これは既に実行した)

(ロ) 十二月上旬頃、統一同盟を通じて組合同盟に對し、組合同盟が本年度全國大會で決議した全國勞農組合會議を直ちに招集せしめるべく申込ませる事。

(ハ) これと前後して大阪勞働組合會議も全國組合會議の具體的提唱をするらしい形勢にある。勿論我が評議會は極力これを支持する。

(ニ) かくて我が評議會は、これらの提唱を極力支持し、全國會議開催のために凡ゆる方法をとる。

(ホ) 特に最も重要なことは、中央委員會の決議にある如き、地域的及び組合間の共同闘争委員會の實現と、かかる共同闘争委員會による全國會議の支持運動の強烈なる發展である。故に各組合、地方評議會に於ては、この點に充分なる努力を拂はねばならぬ。

(ヘ) 而して組合同盟及び大阪組合會議の決議を實行せしめるべく努力する事。

十一月廿七日

中央常任委員會

既に見た如く、評議會は、かの金融恐慌をモメントとする勞働者大衆の憤激——自然發生的闘争に於て、その先頭に立ち勇敢なる共同闘争のXXを展開して來た。如何なる場合にも左翼の獨立的

活動がなければ仕事は進むものではない。

かくて、かつては福本イズムに害された勞働組合の戦線統一も、資本の積極的攻勢と、左翼勞働組合の活潑なる實踐的闘争によつて著るしく面目を改め、従前の如く「組合會議」が單なる名目だけの組合會議ではなく、左翼が行動の指針さへ與へれば、何時でも活動を開始するやうになつてゐる。殊に工場と工場との大衆が共同闘争を通じて接近し、又階級意識が同一水準に達してきた事はこの運動の基礎を愈々強固にするものであつた。

かくの如きは、左翼が、凡ゆるモメント——日常闘争、五法律要求、勞働調査、工場安全週間、對支問題、等々——を捉へて不斷の闘争を展開して來た功績である。

だがこの様な事で満足してはゐられない。そこで、この指令によつて下からの共同戦線を一層強力にせんとしたのであつた。

一方、上からの共同戦線の持ちかけとしては、先づ統一運動同盟に大會を開かせ、こゝで評議會の方針を更に擴大、具體化せしめることであつた。

統一同盟は云ふまでもなく評議會が壓倒的な勢力を有し、指導的な立場にあるのであつた。

統一同盟の大會は、豫定通り十二月十三日東京に於て開かれた。此處では、統一同盟本來の使命たる「統一運動」に関する凡ゆる重要な議案が、戦術上の立場から審議されたのであるが、その議

案の骨子をなすものは、云ふまでもなく評議會第二回中央委員會が決定したところの方針に基くものであつた。だからこの會議は中央委員會の方針を再論したものだとも云へるが、このことによつて一評議會の活動方針が、他の團體、有志——即ち統一同盟加盟各組合及び他組合の有志——の方針にまで浸透、擴張されるのであつた。そしてそれは統一同盟存立の意義をなすユエンでもある。統一同盟大會は、評議會の決定した方針を自分自身のものとして統一戦線結成のために「全國組合會議」開催の運動を起すことになつたのである。

これより先き——十二月四日——大阪市の三十團體の正式代表者は（總同盟と官業労働を除く）大阪労働組合會議に集まつて、全國労働組合會議開催の大運動を起す事を決議した。

かやうな形勢によつて統一戦線の氣運はいちじるしく進行されてゐるので統一同盟本部は勇み立ち、大會が終ると直ちに具體的運動に着手したのであつた。

中間派の煩悶

統一同盟本部常任委員が、全國組合會議召集に關して具體的第一步を進めたのは、組合同盟に對する働きかけであつた。

即ち組合同盟は、本年度の全國大會に於て「全國労働組合會議の提唱」なる議案を可決してゐる。

勿論この議案は、組合員大衆の側から提出されたものであつたが、多數の賛成を得て決定してゐるのだ。だが、組合同盟の中央委員は、この決議を無視した如く何等の活動をもしなかつた。然し大衆が戦線統一の現實を熱望し、待ちかねてゐる時、如何に排他的、分裂主義者と雖も大衆の壓力をどうする事も出来まい。で、地方に於ける共同戦線を強力にしつ、統一同盟本部常任委員は、十二月十六日組合同盟本部を訪れ、「全國組合會議」開催のための懇談會開催を申込んだ。

組合同盟幹部と、統一同盟幹部とは種々談合の結果、二十四日に回答する旨を約束した。そして結局、「組合同盟では來年二月全國組合會議を召集する事に決定してゐる」旨の言質を得るに至つた。

來年二月——この月こそは、我國最初の普通選挙制によく國會議員の總選挙の行はれる時である。それは實に無産階級運動にとつて且つて見ざる如く全國的な多忙が豫想出来る時ではないか、組合同盟自身が勿論この選挙戦の渦中に入る事は見やすい事實であるが、かくの如き言明をする中央常任個人としてもそれ／＼立候補の野心もあるであらう早くも當選の歡喜を夢見てゐるのだ。彼等には大衆を如何にゴマカスかの一點だけが痛切な問題なのだ。

組合同盟幹部が口に統一を唱へつ、も事實に於て戦線の分裂を行ひ、このために死力をつくした事を我々は既に見た。即ち金融恐慌の場合、左翼が工代会議の戦術によつて労働者大衆の利益を擁護してゐる時、彼等はサボタージユし「工場委員會が先だ、工場代表者會議は後だ！」等とクダ

ラナイ「公式」を振り廻して妨害し、又別に「賃銀値下反対同盟」の看板を上げて運動の分裂を策し、實は何一つしなかつた。そのみならず左翼の政策を支持したと云ふ理由で、最も戦闘的な西合同盟合を除名し、多くの優秀な活動分子を投げ出した。斯様な例を一つ／＼ヒロイ上げてゐるわけには行かんが、戦線統一の運動が、彼等幹部の懸命なる妨害にも拘らず進展しかけるや、彼等は實に見苦しいデマを飛ばしはじめた。

「勞農黨名古屋支部の幹部、山崎常吉君（愛知縣會議員、のちに衆議員候補者）が民政黨に走つた」云々（日本勞農新聞第二十一號）これが事實無根の逆宣傳である事は云ふまでもない。しかし之はまだ地方の事だが、もつと悪質な事は、同じ新聞の廿二號に評議會本部内に如何にも動搖が起つてゐる様なデマを飛ばした事だ。この要領を知るために評議會常任委員會が発表した公開状を見よう。

公 開 状

貴黨機關紙日本勞農新聞第廿二號第二面に「——前略——中村中央執行委員は辭表を叩き付て去る云々」なる見出しの下に「——前略——評議會は限りなく亂闘を現出して來た——中略——東京の中央本部にてもインターナショナル決議の問題から反福本の中村常任執行委員に辭職を強要し、中村義明氏は奮然として辭表を叩きつけたとのことである」といふ虚偽と捏造に終始せる中傷、逆宣傳の記事が掲載されてある。如何に相手を罵罵、中傷し、僅かに自己の存在を主張せんとする哀れな中傷、逆宣傳が今や急速に没落

への傾向をたどりつゝある貴黨幹部に残されたる唯一、最後の手段亂舞とは言ひ條、同記事は餘りにも無産大衆を偽罵愚弄する許すべからざるものである。苟も無産階級解放運動に携る者の言論行動には絶対に階級意識が嚴守されてゐなければならぬ。

徒らなる中傷、逆宣傳に依つて、大衆を偽罵し、無産階級解放運動に携る者を傷げんとする如きは、我々の斷然排さなければならぬ態度である。

貴黨は、そも如何なる事實に依つて現に我が評議會の指導方針の下に他の常任委員と協力し、日々活動を續けてゐる中村常任委員が辭職を強要され、又同君が辭表を提出したと云ふのか？ 恐らく一語の答辯も出来ないであらう。中村常任委員は、貴黨機關紙に依つて初めて自己の辭職云々を知つたのだ。この一事に依つても同記事が如何にデタラメであるかと云ふことが判る。我々は、いゝる無根の事實を、無産階級解放のために戦はんとせらるゝ貴黨の機關紙に掲載し、貴黨員はもとより、全無産大衆を偽罵せんとする幹部の非階級的態度を貴黨のために甚だ遺憾とするものである。

更に同紙は、いゝる無根の事實を並べ立て我評議會は「限りなき亂闘を現出」してゐる云々と臆面もなく言つてゐる。我評議會が強固なる團結の下に我が國無産階級解放のために、勇敢なる戦ひを進めてゐることは、貴黨幹部諸君には、怖ろしき事實ではあらうが、貴黨大衆諸君の認めてゐるところである。これを「混亂」せると逆宣傳せるは、我評議會を「混亂」せしめ、自己の指導的立場を保持せんとする貴黨幹部の卑劣なる底意に依るものであることは、過去に於ける幹部諸君の言動並びに同記事全體を通して伺ひ知ることが出来る。

我々は最近貴黨幹部が死物狂ひになつて斯の如き捏造せる無根の事實を振り廻し、労働農氏黨並びに我が評議會を中傷、逆宣傳せらるゝ意圖を以上の如く、實に支配階級の政策に相通する憎むべき左翼戦線の擾亂にあると見る。斯の如きは、無産階級解放のために戦はんとせらるゝ貴黨の採らるべき態度で断じてないと思ふ。

我々は常に階級的、統一主義を高唱せらるゝ貴黨幹部の實踐的行動が如何なるものであるかを暴露し、これに抗争して来た。今又こゝにかゝる現行犯を捉へた我々は、これを貴黨並びに全無産大衆の目前に暴露し、糾弾することは、我々の階級的義務と考へ、この「公開状」を發する所以である。我日本労働組合評議會中央常任委員會は、中央常任委員中村義明君連署の上、貴黨に對し、本「公開状全文」を日本労働新聞第二十三號第二面に、前掲記事と同號活字に依る見出しの下に、掲載されんことを要求するものである。

昭和二年十一月十七日

日本労働組合評議會中央常任委員會

同 中央常任委員 中村 義明

日本労働農黨

組合同盟——日勞黨——の幹部の意志はも早明確である。彼等は、組合及び黨の現在の對立状態をどこまでもつゞけて行く事によつて、彼等の「戦線統一」を現出せんとしてゐるのだ。そこで左翼の運動を小兒病と稱し、又、根も葉もないデマを飛ばして左翼内部を擾亂しようとするのだ。

だが、その指導下の大衆は幹部の日和見主義的意志に反して成長し發展するのである。又評議會のオルガナイザーは彼等の陣營深く喰ひ入り活躍する。

一方資本の搾取と、迫害とに追ひ詰められつゝ、ある労働者大衆は、景氣のいゝ、カケ聲だけでは承知しない。生々した闘争の中に於て誰れが、どの團體が、眞實の味方であるかを體驗によつてハッキリ知つてくる。かくて中間派の中に、左翼分派が生じ、反幹部の氣運がメキ／＼と結成する。

闘争力を強大にせよ!!

全國的共同戦線の確立!

この叫び聲は、津浪の如くモリ上つていく。

組合同盟大會に現れた反幹部熱

それでは組同盟の方はどうか

組同盟こそは、我國右翼労働組合の代表的團體であつて、その指導者達は極端なアンチ共産主義の信奉者である。××××××××××は、労働代表としてゼネパへ行く事、縣市會議員になり代議士になる事、一言にして云へば、資本家的社會上の地位にありつく事であり、帝國主義的特別利潤の分配に預る事である。従つて彼等の運動方針は、その綱領、政策が如何なる文字で綴られてあらう

とも、断じて闘争的ではない。彼等は資本主義の繁榮を期待し、その框内に於て改良を乞ひ、ひたすら無事平穩を祈つてゐる。彼等は無産階級を鐵鎖から解放するのではなく之を永久に奴隸とし、闘争を拒否し、階級協調の夢を見てゐる。

かくて、かゝる立場よりする「戦線統一」は、必然に、左翼との最大限度の隔離を意味するものであつて、飽くまでも主義主張を同じくする右翼の聯盟である。だが、これとても大衆と大衆との聯盟を必要としない。彼等同志の間には、四疊半的な「了解」がありさへすればいいのだ。

右翼の秀れたる指導者西尾末廣君は、雑誌「社会運動」(この雑誌は昭和二年十月十五日に一回發行された切りだ)紙上に於て「大右翼結成を提唱す」と云ふ見出しで論文を發表してゐる。この雑誌は、恰も總同盟全國大會の一日前に發行されたものであつた。

「私は現在我國無産階級運動の情勢に於て、當面——左翼の小兒病的行動の故に生起したる無産階級運動全線の混亂と、資本の積極的攻勢並びに意識的ファツシヨの勃興との——に要求せらるべき具體的戰術として「大右翼結成」を提唱せんとするものである……」と西尾君は切り出して、西尾君の立場からの我國労働運動の歴史及び資本主義「現段階」の様相を長々と分析して、「大右翼結成は第一に評議會、勞農黨、統一同盟等の左翼團體を除外した其他一切の無産階級團體を、政治的には社会民衆黨に、經濟的には右翼總聯合に統合整理することを意味する。然しながら今直ちに右翼

各組合を聯合統一することは、それ／＼の傳統や、其他の事情等のために容易ならぬ困難があるから、大右翼結成の第一歩は政治的聯合よりはじめなければならぬ。やや官業總同盟、日本海員組合、總同盟、農民總同盟等はすでに社会民衆黨に加盟し、海軍聯盟、交通總聯盟等も漸次接近しつつある……」而して最後に日勞黨の態度に關し「日勞黨自らを揚棄する事」を示教してゐる。即ち西尾君の現段階の客觀的諸條件に對する「透徹せる認識」は、日勞黨の進む道は分解か自然消滅かの外ないのだ。即ちその内包する分子は左へか右へかハッキリしろ!「日勞黨幹部の麻生、石山、棚橋、三輪、藤岡、杉山、賀川、阪本(孝)の諸君が我等に比して左翼的なりとは何を根據として稱し得るか!」とタンカを切つて居る。

ところで、それでは總同盟の一般組合員大衆はどう考へてゐるか?

資本の攻勢と迫害は、左翼に對すると同様何の區別もなく右翼大衆の上にも無慈悲に襲ひか、つた。この當然の結果としてすでに見た如く左翼の指導展開した工代會議に進んで参加したではないか!

今大衆の意志を端的に表明したものととして總同盟昭和二年度全國大會(十月十六日より三日間東京に於て開く——(筆者は傍聴者の一人だ)の質問の要領を二三列挙して見る。

「主義主張を同じくする組合と合同を促進する件」——本部提案

「主義主義を同じくする組合とは如何なる組合か、中には御用組合や協調團體も含まれてゐるのではないか？」

本部長は之に對して明確な答辯をしなかつた。又青年訓練所廢止運動に關する質問に於て「本部は評議會をコキおろすことに熱中してゐるが總同盟自體のやらねばならぬことを免かく怠つてゐる。評議會など問題にせずケトバして總同盟のやらねばならぬことを積極的になぜやらぬか？」

「免かく本部は相手をボロクソに言つて總同盟を浮き上げてゐる様だが——松岡君、西尾君の報告、機關紙の如く——然しそれでは總同盟の仕事は少しも進まぬ、我々は我々の仕事をモット積極的にやらねばならぬ。右翼だ共産黨だと言ふが要するに階級的立場が必要なんだ、本部はモット階級の教育をやれ！」(詳細は小泉氏著、左翼労働組合運動)

大體右の如くである。要するに大衆を代表する代議員は、協調團體や御用組合を排斥してもつと階級的な仕事をしろ！と要求してゐるではないか。

評議會は、この總同盟大會に對して、只靜かに傍聴してはゐなかつた。この反幹部的氣運を一層激發し發展せしむるために「メッセージ」を送つたのである。

だが、我々のメッセージは、反動幹部の詭辯によつて握り潰され、會議の席上では遂に發表されなかつた。で、評議會はこのメッセージを謄寫版印刷(半紙三枚)にして各代議員に一人々々手交して目的を達したのであつた。恐らく彼等の最悪の×は、支配階級ではなく實に左翼評議會であるの

だ。

總同盟全國大會に對する評議會のメッセー

總同盟全國大會に出席せる親愛なる全代議員諸君！！

今、野田では總同盟所屬組合員二千名の兄弟が政府、資本家の組合ヲチ壊し政策に對し敢然と戦つてゐる。

又信州岡谷では、去月山一林組製絲工場の一千名の全従業員が組合公認及び劣悪なる労働條件改善を要求して力戦し、其外大日本紡、淺野ドック等々の兄弟も又いづれも解雇、賃銀引下げ、極度の劣悪なる労働條件改善を要求して苦闘し來つた。

全代議員諸君、かくの如き資本家階級の組合ヲチ壊し、賃銀の引下げ、時間の延長、解雇等々による攻撃はもとより野田、岡谷、大日本紡に限られてゐるわけではなく、近くは鶴見芝浦工場千三百名の従業員に對する資本家團體「六郷會」による攻撃、東京市従業員に對する市當局の積極的挑戦、北海道小樽港内自由労働者に對する運輸資本家團體に依る攻撃等々、労働者階級に對する攻撃、逆襲は全国的にすべての産業、工場に於て等しく行はれてゐるところである。

而して、かかるブルジョアの攻撃は、常に資本家國家の專制的な政治權力に擁護支持せられることに依つて行はれるのだ。

見よ！野田、大日本紡、岡谷等々、諸君等の直接經驗せるストライキに於て、××××××××××、××××××××××如何に露骨陰險なる手段を以つて××××××××××、労働者階級唯一の闘争手段たる罷業權を蹂躪し去

ところが不思議なことは總同盟の最高幹部の態度言動だった。彼等は評議会の階級的立場からする應援を決して喜ばなかつた、しかし乍ら幹部の意志がどうあらうと、左様な事には頓着なく凡ゆる方法で争議團を支持し、その勝利のために努力しつづけた。かうした中で争議の形勢は愈々深刻となつた。

かくて評議会の行動と、争議自體の情勢に刺戟されて全国の各組合が次第に動き出した。就中、東京に於ては、争議が目前に於て戦はれてゐるだけに一層眞剣であり一齊に應援する氣運が漲つた。この情勢にふるひ立つたのは評議會であつた、そして更に之をアチテーションしたのは無産者新聞だつた。

評議會は第二回中央委員會に於ける「組合統一」の方針を實踐に移すはこの時なりとして「野田争議應援のための組合會議開催」の檄を飛ばした。勿論この檄は恰も加盟組合に對する本部の指令の如き効果をあげた。かくて十二月十二日夜、市電自治會本部に於て關東勞働組合會議が開かれた。當日は總同盟、組合同盟、自治會、總聯合、市従業員、俸給生活者組合、評議會等々、東京に在る凡ての勞働組合代表者五十名出席した。一時名前だけは残つてゐたが實質的な働きを中絶してゐた組合會議は、こゝに復活したのである。

この會議は×××××により解散され、出席者全部×××××れたが、この×××××××××××××××××

×に發展し、又、

キツコーマン醬油ボイコット！

反動團體撲滅！

會社の糾弾！

争議團の徹底的應援！

のスローガンの下に共同闘争を展開し、こゝに關東組合會議は活氣を呈するに至つた。

かくて評議會の組合統一運動は、大衆的日常闘争の基礎の上に一步々實現して行くのである。

野田の争議は昭和三年三月××事件まで越して添田敬一郎の仲裁で解決した事は人の知る通りである。

この年の總観

闘争から闘争へ！ 躍進又躍進！ 實に目まぐるしき發展をつづけた昭和二年も愈々終りに近づいた。

五、昭和二年を送る

今、昭和二年度の闘争記を終るに當り、その頃の評議會本部が如何に財政的その他の點で困窮し

て請求書を送り又根本策としては切手制度を採用して見たが中々思ふ様にはいかなかつた。會員が増加しつゝ、會費の納入は減つて行くのだ。本部はその日暮し的に五圓集まれば切手を買ひ十圓出來るとピラを刷つた。殊に「労働新聞」の發行にはまとまつた金が一時に入用なので閉口した。だからせめては新聞だけは定期に出せるやうにと考へた結果が「千五百圓募集」運動になつたのだが、募集運動の成績を挙げようとすれば又それだけ多くの宣傳費が必要でもあつた。

かう云つた工合だから本部常任委員は「給料」を受取る事が出來ないで毎月ズルズル延びに延びてしまつた、月給取りが月給をもらへなくなれば生活する事が止まる。第一飯が喰へない、家賃が拂へない、電車賃がなくなつた。

「俸給者組合に應援して貰つてストライキでも起すか……」

なんて云つて皆が笑つた事もあつた。

そこで私——筆者——は、あちこちの雑誌社へ原稿を賣り込むために跳び廻り、又我々の運動に共鳴し、我々の生活状態に同情する人々、今の言葉で云へばシンパサイザー諸氏の宅を馳けずり廻つた。だがその様な努力で集めた金までがピラの印刷費に使はれる事さへあつた。

「あの時分評議會の幹部はどうして生活したのかねえ？」

と質問する人が若しあれば、私は即座に次の様に答へる。

「幹部ですか、皆が何も喰はないで働いてゐましたよ！」と。

全く、よく餓死しなかつたもんだ。

折衷主義者の再現

労働組合の戦線統一問題が、著るしく激化した日常闘争をモメントとして共同闘争の基礎の上に具體化したつゝ、ある現下の状態に就てはすでに見た通りであるが、この傾向は直ちに政黨運動の方面に反映して黨と黨——労働黨、日労働黨、社民黨——の間に戦線統一の氣運が濃厚になつて來た。と云つたところで社民黨や日労働黨の幹部が戦線の統一を希望するやうになつたのでは勿論ない。彼等はそれを嫌つてゐる、だが彼等の指導下にある大衆と大衆とが日常的な實際闘争の經驗を通して戦線の統一を叫び、政黨の合同を要求するに至つたのであつた。かうした氣運は、かの府縣會選舉戦の前後より期せずして各黨の内部から燃え上つたものであるが、愈々來年の二月、我國最初の普通選舉制に依る代議士選舉戦が行はれようとして一層眞剣な問題となつたのである。労働組合の共同戦線が問題になつたのと時を同じくして農民組合方面にも合同問題が論議されたのであつて、それこれ思ひ合すと當時無産階級團體全線にわたり「統一合同」の氣運が漲つてゐたのだ。

かやうな情勢の中へ跳び出して來たのが例の「山川一派」である。山川、堺、猪俣等々の一派が

無條件合同論を振り廻して活躍したがものにならず當時最高潮にあつた「福本イズム」から批判されて一時全く階級闘争の戦場から逃避してしまつた事は前に見た通りであるが、それが又再び正面の舞臺に登場して來たのだ。

それは何故か！

即ち前に彼等一派の本質を暴露、批判、排撃したものは云ふまでもなく「福本イズム」であつた。福本イズムが誤謬に充ちた觀念論であつた事は、これ又我々の見た如くであつて、當時福本イズムは彼等の無條件合同の組織理論をヤツツケ、追拂ひはしたが、辨證法的に充分克服し切つたものではなかつた。

しかるにその後の實踐的闘争の中で左翼労働者は素晴しく成長し、理論闘争に依つて對立を尖鋭化するのではなく、辨證法的な戰術の理解によつて戦線統一のモメントを敏速に捉へ之を具體化してゐるところなのだ。従つて今叫ばれ、醸成され、漲つてゐる統一合同の氣運は、彼等一派がその昔となへたところの「指導精神抜き」の「構成分子が同じ労働者農民であると云ふ同一性のみを見て」所謂「無條件合同」をしようとしてゐるのでは斷じてない。云はゞ福本イズムでは決定的に克服し切れなかつたものを眞實に克服しつくすための運動が今起りかけてゐるのだ。

要するに彼等が實戦から逃避し、ブルジョア雑誌やブルジョア新聞に原稿を賣り、のんびり暮し

てゐる間に大衆は闘争の中で素晴しく成長した。そして山川イズムからも福本イズムからも脱却し辨證法的な左翼戰術によつて戦線統一の氣運を強め、高めてゐるのだ。それを滑稽にも彼等は見あやまり自分達の骨の髄までしみこんだ無條件合同論が、恰も大衆から迎へられる時節が到來したかの如く思つて再び跳び出したのであつた。

然しながら彼等一派がノサバリ出たに就ては今一つ重大な理由があつた。外でもない彼等自身の無條件合同論が、コンミンテルンによつて支持されてゐると、とんでもない考へを起した事による。

(コンミンテルンの大會はこの年七月)

コンミンテルンに於て日本問題に關する批判が行はれ、その譯文が第一に雑誌「文藝戦線」(九月號)紙上に掲載された。これはほんの「概要」だけである。それからすつとおくれ翌年二月「社會思想」紙上に、又三月號の「マルクス主義」に附録としてその全文が譯載されたのであるが、最初コンミンテルンに於ける日本問題に關する批判の概要だけ見た山川一派は、福本イズムが徹底的に批判されてゐることだけを見て反射的に元氣付いた。

サテこそ彼等は奮然立ち上り左翼陣營に對して一齊射撃を開始した。前衛を攻撃し、無産者新聞をコキ下し「マルクス主義」を仇敵の如く罵つた。彼等の武器はブルジョア新聞でありブルジョア雑誌であつた。彼等の協力者は日勞黨の指導者であり社民黨の社會民主主義者であつた。左翼攻撃

に味方する一切の者は彼等にとつて「同志」であつた。

宗派主義、福本イズム排撃！

福本イストを葬れ！

と、彼等は嗚呼り廻つた。統一戦線完成のためには先づ何をおいても福本主義を葬れ、これこそは「絶対必須の条件」である。而も我々はコンミンテルンより支持されてゐるのだからこの事はすなはちコンミンテルンの意志である。

かくて彼等は今や全く意識化し戦闘的労働者を大衆より分離し、孤立せしめんとしたのである。彼等の策動が如何に共同戦線を事實の上で妨害したかは、はかり知れないものであつた。彼等は口に統一を叫び事實に於て反對の行動をとつた。而もそれはコンミンテルンの名によつて、その批判を曲解、虚構する事によつてだ。

だが、やがてテーゼの全文は届き、出席して居つた代表者は歸朝した。かくてコンミンテルンに於ける一切の真相は大衆の前に明々白々となつた。勿論福本イズムの誤謬は指摘され批判されてゐるが、同時に山川一派も同様に批判されてゐるのだ。

かくて彼等一派の強辯、曲解、虚構による必死の努力は、徒らに彼等の無能と折衷主義の正體を自らの奮闘によつて全労働大衆の前に暴露した以外には何等むくいられる事もなかつた。だが彼等

は雜誌「労働」を發行する事によつて引つゞき根氣よくその主張をつゞけるのであつた。

左翼の陣營は彼等の攻撃にはビクともせぬのみか、コンミンテルンの批判に接してもいさゝかの動搖なく直ちに過去の誤謬を清算して愈々基礎を強固に定めた。前衛の活動と密接な連關の下に活動してゐた評議會は、その獨自の闘争過程に於てすでにコンミンテルンの方針を受け入れる準備を整へて居つた。だからやがて××黨が公然の活動に進出するや、會員中よりその中に跳り込む者が非常に多かつた事は後に至り世人のハッキリ見せつけられた如くである。

遊説土産話

さて、それでは「全國遊説隊」の事に就て一應見る事にしよう。

評議會本部が人手の少ないこと、無限の仕事に忙殺される思ひをしてゐること、その上財政的には全く行詰り今にも破綻しさうな苦境にあること、等はすでに見た通りだ。然しながら一方評議會全線にわたる活動振りは實に猛烈なもので、その發展の狀況は文字通り飛躍的であつた。しかも本部はかゝる運動の發展を更に刺激し促進するために全國遊説隊を編成して大々の活動を開始することにした。遊説隊員の重立つた顔振れは次の如くだ。

野田 律 太

(中央委員長)

中村 義明

(中央常任委員)

南 喜一

(統制委員)

河田 賢治

(中央委員)

本澤 兼次

(本部オルガナイザー、遊説隊責任者)

以上が本部遊説隊の陣容であるが、各地方評議會、組合に於ても本部にならつて組合員中の優秀な闘士を選抜し、それら「遊説隊」を編成させた。

かくて遊説隊は、地方の申込に應じ、又時には本部が必要と認められた場合は指令し、演説會を開くのであつて、出張費用は原則として主催地の組合が負擔することになつてゐる。

この遊説隊が單に演説會で熱辯を振ふと云ふだけではなくその地方の組織運動を指導し又はストライキを指導する任務を持つて居る事は云ふまでもなからう。

全國遊説隊の活動に關して詳細に述べるわけにはいかないが、遊説隊編成後第一番の地方出張には筆者自身が出かけたので其時の様子をかいつまんで報告して見る。

時は十一月廿五日から一週間、目的は盛岡地方の鑛山、交通を中心とする運動のためであつた。盛岡の組合から招かれた私は、此度同地方のオルガナイザーとして派遣される坂本一郎君と同じ汽車に乗つた。盛岡驛では多數の同志に迎へられて直ぐ組合本部に入りプログラムを作つた。演説す

る所は盛岡市(一般労働者)花巻町(電車従業員)和賀鑛山(鑛山労働者)其他二三ヶ所であつて別に特筆するほどの事もなかつた。花巻ではアナキストの一團がピラを撒いたり彌次を飛ばしたのでちよつとした衝突があつた事、鑛山では三四里も離れた所からはるく××が出張するのでおそくなつては歸り途が大變だらうと考へ、同情心を起して正式な演説會はほんの四五十分間で切り上げ、××が歸つた後でユツクリその會合をつけた位なもので、これだけでは至極平凡なものであるが、盛岡の同志から次のやうな面白い話を聞いたのは一つの土産であつた。

それは大正十四年十一月のことである。盛岡市に社會民衆黨の支部が創立したので、本部から赤松克廣氏が来る事になつた。何しろ無産黨の名士が盛岡へ来ると云ふので驛の前には支部の幹事が迎へに来る、新聞記者が出張すると云つた工合でちよつと賑はつた。

汽車が着いて赤松氏がプラットを出た、と氏はロク／＼出迎の者に言葉もかけず直ぐ自動車に乗つて大慈寺の中に在る原敬の墓の前に直立不動の姿勢である。盛岡市では原敬のことを悪く云つては演説會は直ぐブツブツされるさうだ。そこで政友會の連中は勿論のこと民政黨でもその他なんでもかんでも、盛岡へ来た者は第一番に原敬の墓に敬意を表する事になつてゐるさうだ。そこで赤松氏流石に考へたもんだ、そいつを實行したのだ。

原敬の石碑の前に「キヲツケ」した氏は例のドモリ口調で、

「……労働者が團結し、合理合法的手段により生活改良をはかることは、閣下の御賛成下さる事と信じます、今度私が當地へ來ました目的はそのためであり、閣下願はくば吾々のこの公明正大なる運動を地下より御守護して下さい」とやつて謹しみ深く合掌した。

それが済んで漸く打解けた人間にかへり、直ぐ土地第一流の料亭「秀清閣」にくり込み社民黨員十一名と大に飲んだ。

その翌日石川某の宅で茶話會を開いた。この時社民黨員の一人が評議會の横田忠雄君に「赤松先生が色々お話しして下さるんだ、君是非こないか」と誘ふまゝに横田君は出席した。赤松先生のお話は共産黨の排撃であつた。「勞農黨は過激でいけない、あれではトテモ壓迫がひどくてやり切れん、現に×××では勞農黨は駄目だ、と言つて居る」

そこで横田君が「どうも田舎に居ると中央の事情が判らぬので困る、組合や黨が分裂してゐてもその理由が吾々にはハッキリせん、社民黨の人と勞農黨の人とが立會つて兩方の言分を聞かしてくれるといふんだがなあ……」

「そいつはい、ねえ」
と赤松先生直ぐその言葉をとつて、

「全く地方の人は氣の毒です、随分お困りでせう、一つ運動して見ては如何です。僕等の方は何

時でもい、ですよ」

「山本懸藏君と云ふ人はどんな性質の男ですか？」

「ウーン山懸ですか、あれは私の宅に書生に置いた事もあるが、中々面白い男ですよ」

「その山懸が今私の宅に來てるんですよ」

「エッ！」

「丁度い、都合だから先生と山懸と立會で充分その分裂事情を話して下さい」

「……？」

「ちよつと呼んで來ますからねえ！」

赤松先生の顔色がにはかに青くなり赤くなり又青くなつた。

「僕、僕、僕ねえ、八時……の汽車に乗るんですよ、あつ！ 時、時間が來た、諸君失敬する……」

遊説から歸ると間もなく新年である。

第十八章 評議會最後の活躍

一、X X 黨の出現と評議會

二様に思へる會合

「評議會闘争史」は、こゝに愈々最後の年の記録に向つてペンを進める段階に達した。即ち昭和三年（一九二八年）四月十日、評議會は、労働農民黨、無産青年同盟と共に時のX X — X X X X X X X X — の手に依つて殆んどX X 的に解散されたのだから、評議會はこの年、僅々四ヶ月餘の闘争を以て全く最後とするのである。

しかしながら最後の年のこの短期間の闘争こそは、その實質に於てまことに素晴らしいものであり歴史的なものであつた。そのことはX X が三團體を「解散」せずには居られなかつたと云ふ事實を見ただけでも充分判ることであらう。

これら三團體——就中評議會はこの期に於て、過去の闘争により經驗し、習得したる凡ゆる政治的、組織的、戦術上の智識、技術を全部的に應用して全國的、大衆闘争を果敢に捲き起した。

しかも評議會が先頭に立つて指導展開する闘争は、労働黨、青年同盟、及び統一同盟加盟の各左翼團體の協力、支持によつて益々活潑になつた。左翼團體の戦線は今や全く飛躍に次ぐ飛躍である前進又前進であつた。かくて左翼、中間派の大衆は漸次奮起し日和見主義幹部をハネ飛ばした。

それはさうとして置いて、この期に於ける活動が我國運動史上「歴史的」であつた點に就て特筆大書すべき事件は「X X X X X X X X」の出現である。そして今一つは今年二月に行はれる普通選挙制による我國最初の代議士選挙戦である。

X X X X X X は、すでにその發生後相當の歴史をもつてゐるに拘らずその存在はX X X X X X ものであつて一般労働大衆はその存在さへも知らなかつた。ところが今度労働者農民——無産大衆——自身が眞實の代表者「俺達の代議士」を選挙する機会を目前に控へ政治的關心を高め、異常な興味と興奮を感じ、著るしく闘争意識に燃へてゐる最中、「X X X X X X X X」が公然と大衆の前に姿を現したのだ。これ實に我國解放運動史上初めての現實であり歴史的な事件であつた。X X X X X X の出現こそは我國の解放運動が、いよいよ本舞臺に乗り出した事を意味し、同時にそれは組織的には實際的戦線の一環として戦はれ始めた事を示すものであつた。

X は獨自の立場より深刻な闘争を開始するに當り、先づ我國解放運動の將來に關する科學的な見透しに就て詳細な「テーゼ」を發表した。

として港七郎君の十八番とする「漫談」が始まつた、港君の漫談は今日その内容は忘れたが、面白おかしく、そして中々皮肉に富んだ痛烈なものであつた。満座は抱腹絶倒とまではいかんが愉快に笑つた。かうした光景にXXはすっかりテレてゐるが、XXX総同盟のX君が立つてXXXX事件に就て述べXXXX、XXXIと嗚鳴つた。一九二八年度第一XXXXである。而もXXXXXXXてしまつた。本部の事務所に本部員の残ることさへも許されず、一先づ全部の者が追出されたのであつて、出席者の憤激は断腸に達した。

その翌日、即ち一月四日は各加盟組合一齊にXXXの會を舉行する日である。本部常任委員は手分けしてそれらの會合へ出席する事にした。筆者はそのうちの二ツ、太平町に本部を有つ「合同労働」の會合に列席した、流石に「南葛魂」を誇る本陣だけあつて集まつてゐる闘士は活氣旺盛な青年ばかりだ。渡邊政之輔君のお母様も列席して居られた事は忘れ得ぬ印象の一つである。こゝではハチ切れるやうな元氣を見せつけられ、酒まで御馳走になつた。こゝでは會場内は無論のこと本部の周圍にもXX一人居なかつた。

ソビエツトよりの便り

XXXXXXXXの出現によつて我國の運動が初めて山川イズムや福本イズムを克服し、マルクス

主義的な、國際的戦線の一段となつた事をば見た我々はこの期に於ける評議會が、組合運動としても國際關係を親密にしてゐた事に就て見ておく必要がある。すでに見た如く評議會は支那革命運動に代表者を派遣して援助し、レブセ氏を迎へて親善の實を擧げた、反帝國主義國際聯盟の大會（十月五日巴里に於て開く）から招待されたが缺席した事は遺憾ながら詮方ない。そして斯様な事は外にもあつた、簡單にかうした事を知る便宜上次の書面を見よう。

「労働露國では、本年十一月七日を十月XX及無産階級XX確立の第十週年紀念日として紀念致します。

ロシアの労働組合中央評議會は、一千萬の組織労働者の名を以てXXの凡ゆる組織労働者、その代表をロシアに送り、十月XXを紀念されるやう御招待致します。代表の到着は成るべく早い方がよいと思ひます。何故かと云へば、紀念日以前にロシアの労働階級の生活状態を知ることが出来て都合がよいと思ひますから。

出来るだけ早く返事を下さい。

そして凡ゆる種類の組織労働者を代表した委員を送つて下さるやう。そのために各種の労働組合によつて、代表選出の特別委員会を組織されることを希望します。

日本労働組合評議會殿

ロシア労働組合中央評議會

頭たる「労働者と農民の團」に對し、着々と準備を急いでゐるのである。

この進展は、その材料である。帝國主義者の對は、その序幕である。一九二七年の驚くべき飛躍的進展を見せた。一九二八年の労働者農民は、更に数十倍するを見せるであらう！ 而しての危機は、加速度的に世界の労働者農民の前に押し迫るであらう！

我々はかくの如き危機と戦はねばならぬ。

東亞の支柱として對の先頭に起つてゐる。そして直接にの衝に當つてゐる。にあり、を整へて正にせんとし、に、在る巨大なるを可決せんとし、の準備にこれ努めて居る。

我々は、これと勇敢に戦はねばならぬ。何物をも恐れず、大膽にと戦ひ、の危機と闘はねばならぬ。

右の如き見地に立つて、の運動をに捲き起し、この闘争の途につかんと期する。而して来る、紀念祭たる一月十五日より、る二十一日までを執行する。

(一) この連同の意義、目標

この連同に於て、(一)帝國主義のめつゝあるを労働大衆に知らしめ、而も(二)労働者農民がをつげ今や権力掌握の前にあること、(三)その火蓋は既に切られてゐること、(四)このは全世界的規模に於ての労働者農民にとして發展する事、(五)かくの如きに對しては、十五日は、カール・リープクネヒト、ローザ・ルクセンブルグの記念日である、二十一日はレーニンデーである。彼の世界大戦にあつて獨逸の青年を率いて帝國主義に反對して闘つたリープクネヒトの英雄的戦ひは、この日を迎ふことに、吾々の心に更に力強く波打つ。一九〇五年の日露戦争一九一四年——一八年の世界大戦と闘つて、今日「労働者農民の」を築いたは、この日來る毎に我々の決意を強めしめる。女丈夫ルクセンブルグ亦然り。この二つの記念日をつらねてを以て闘へ、そして今やの危機に直面する我が労働者農民にその教訓を攝取せしめよ。

(二) スローガン

1. 對！
2. させろ！
3. 負擔するな！
4. ！
5. 解放しろ！

- △6. XXXXを守れ！ XXXXXXXXを守れ！
- △7. 帝國主義XXXXXXX
- △8. 萬國の労働者團結せよ！
- 9. XXXXXを解散せよ！

(△印は中心スローガン)

(三) 地方同盟はかうして即時闘争に移れ

1. 無産團體協議會を招集して、この闘争の意義及び目標を明かにし、各團體をしてこの闘争に参加せしめること。
2. 聲明書又は檄文の發表。これは地方同盟のみならず各團體にもそれらの立場に應じて發表し、その大衆をしてこの闘争に参加せしめること。
3. ビラ、ポスターに依るプロ、アゲ
4. XXに関するリーフレット、圖書の宣傳販賣
5. 研究會、茶話會の開催
6. 一切の集會に於ける執拗なるプロ、アゲ

——(以下略す)——

XXXXXXの方針、指令は、評議會の支持するところである。否、單に支持すると云ふだけでは足りない。この運動の先頭に立ち勇敢に闘争するものは實に評議會であつたから。評議會常任

委員會は、右の指令を更に活潑に實行せしめるために所屬組合に對して指令した、即ち

「XXXXX同盟は、別紙の如き方針によつて一月十五日の「カール、ローザ記念日」から二十一日の「レーニンデー」までを「XXXXX反對週間」を執行することになつた。吾が評議會所屬組合は、同方針に示された方法によつて各地方、組合工場的情勢に應じて適宜に演説會、研究會、茶話會、可能なところに於ては工場従業員大會等々を執行し本週間を極力支持し、闘争せられたし」

(一月十三日)

以上の指令に基いて全国各地に猛烈な運動が起つた。例に依つてXXXXXに抗争して「XX」の渦が現出したことは云ふまでもなからう。無産者新聞の獨立的宣傳力と、同盟の發行したリーフレット、レーニンとリーブクネヒトは如何に戦争と戦つたか？」は、プロ、アジの効果に役立った。特に青年同盟は目覺しく活躍した。そして、この週間の最終日二十一日は議會再會の日であり、民衆大會の日であつた。そこでこの運動はXXXXX運動の闘争と關聯して充分に戦ひ抜かれたのであつた。

第十九章 衆議院議員總選挙闘争

一、議會参加の目的

議會は解散された

「×××××干渉反対週間」闘争の最終日——一月廿一日——は、休會中の帝國議會再開日に當る事は我々のすでに知つてゐたところである。議員はいよいよ、彪大な軍事豫算を可決するのであるが、この議會再開日に當り田中内閣は豫定の方針通り「議會解散」を斷行した。

何故に田中内閣が議會を解散したか？

而もそれが豫定の方針であつたか！

これは云ふまでもなく田中内閣がよつてもつて立つところの地盤、即ち政友會が衆議院に於て小數黨であつたからである。

田中内閣は、昨年（昭和二年）四月、突如として起つた金融恐慌——それは我國資本主義の内部矛盾の暴露である——の切迫せる形勢の中に生れた。従つて彼の使命は、行詰つた現状を××政治

に依つて一刀兩斷的に打開することであつた。

而もこの××の選手、陸軍大將田中義一は總理大臣として就任すると同時に軍事的な手腕を思ふ存分にふるつた。彼は×××××の指揮棒の示すまゝ、に活躍し、行詰りの情勢を打開するための根本政策たる「産業合理化政策」を急速・果敢・露骨・ガムシヤラに遂行した。彼は實に××の選手として又××政治の執行者として×××の期待に反しなかつた。

かうした産業合理化政策の強行は、一方に於ては労働者大衆の××なくしては行はれ得ない事勿論である。生産は制限され工場は閉鎖された。労働條件は急激に低下し、失業者は街上に氾濫した。實にこの政策強化の直接被害者たる労働者大衆の日常生活は、目もあてられぬ慘憺たるものに陥入つた。

かくて労働者大衆の反抗運動は全國津々浦々に起つた。だが反動政府は、かうした階級闘争の激化に對し、凡ゆる×××××として終始一貫×××××を以て、眞向から壓倒しつくさんとした。だが、労働者大衆の絶對絶命的×××××は、××××××××の亂舞する中に於て愈々益々尖鋭化したことは今までに充分見てきたところである。

一方植民地——朝鮮、臺灣、滿洲——の×××××××××は、支那革命運動の飛躍的進展と、國內運動の尖鋭化に刺戟されて××××××××ある。又更に國際帝國主義の形勢に就いて見るに「×××

會も民政黨も如何にしたならばよりよく労働者農民を××××、植民地半植民地を××し全被壓迫民衆の反抗を××し、××して、××××を完成するがとの政策の對立に依りて議會を解散したのではないか！ 今回の總選挙は無数の制限を有するとは云へ、普選による第一回の總選挙として、新有権者の大部分を占めてゐる労働者、農民大衆の間に異常なる刺戟を與へると共に、その極度の生活の窮乏に對する反抗、闘争の欲求をも刺戟しつゝある。

陰險なるブル諸黨は、政治的經驗なき勞農大衆の民主々義幻影にツケ込んで自黨の下に投票を集中せんとし、全力を盡して誇大なる煽動をなし意識の低い労働者農民の事大主義的傾向を利用して欺瞞せんとし、他方労働者農民の闘争に對する××を一層猛烈にし、極度の××××は行はれつゝある。

斯る形勢の下に火蓋を切られつゝある總選挙闘争に對して我が評議會は如何なる態度を以てこの戦ひに参加すべきであるか？

我が評議會は、勞農黨の選挙協定を支持し總選挙闘争に積極的に参加し、活潑に闘争すべきである。選挙協定の完全に成立してゐない地方に於ては第一に勞農黨を支持すべきである。無産政黨が對立してゐる場合でも相互の對立は最大限度にさけるやうにしなければならぬ。(言論文書及び地盤協定等)

我評議會は、労働者の當面の最も緊切なる要求を掲げて總選挙に全労働者大衆を動員し参加することに依つて階級闘争を××××せしめ選挙闘争の具體的經驗を通じて、勞農大衆の政治的意識を高め發展せしめなければならぬ。

選挙闘争に依つて労働大衆の政治的意識の高まり、闘争心の強まつてゐる此××××して労働者の日

常經濟闘争を××し、闘争を組織し、廣汎なる闘争を通じて組合の組織を擴大しなければならぬ。之は同時に意識の低い大衆を選挙闘争に動員する事になる。この總選挙闘争に於ては全無産政黨の共同闘争を支持し、之の闘争を通じて合同を促進せしめると同時に、我が評議會は組合出身の候補者を共同應援する事によつて組合戦線の統一を促進する事が必要である。更に我が評議會は此の選挙闘争を通じて特に都市労働者と農民との提携を強めることに努力しなければならぬ。

具體的方針

以上の根本的態度に基き我が評議會各組合は次の如き具體的方針によつて全組合員を積極的に總選挙闘争の戦線に立たせ、勇敢に且つ活潑に活動させなければならぬ。

(一) 總選挙闘争への直接的動員

(イ) 勞農政黨の選挙協定を支持して労働者の當面緊切なる要求を掲げ、全労働者を選挙闘争に動員する事。

(ロ) 選挙應援委員會への積極的参加——選挙協定の成立しない所では第一に勞農黨支持の各無産團體によつて成立してゐる應援委員會へ参加する。未だ成立してゐない所があれば評議會所屬組合は即時成立せしめるやう活動すること——勞農黨の候補者なく他無産黨の立候補者のある場合には勿論應援委員會を作つてその候補者を應援し、共同應援に出なければならぬ。

(ハ) 應援金の募集——××本部の活動費として募集すること。

各工場に於ては工場分會を中心にしてその工場に於けるXXXXXX——例へばある工場では青年の日給が特別安いのでXXのある場合はそれで、給料にXXがあればXXXX——をXXXXをXXし、闘争を發展せしめなければならぬ。従つて産業的要求と工場要求とは全部一致する場合もあれば、一部分一致する場合もある。又全部の要求が變形されて形式上の要求が完全に一致するかどうかと云ふことは産業的要求の決定がよりよく産業の各工場の不平を適切に代表しぬる程度に應じてよく一致するものである。であるから機械的に工場要求を産業的要求と形式上一致せしめるが如きは誤りである。

XXXXと闘争のXX

(イ) XX會議實行委員會又は準備會の名によつて組合のXXXXと呼應して投票日公休と産業的要求によつて、又ストライキの起つた場合はその應援のXXを行つて工XX會議開催のXXを作り、この要求を工場大衆の要求として起させ、闘争に動員するやう努めねばならぬ。

(ロ) XX會議の開催は、適當な時機に、例へばストライキの起つてゐる場合はその應援のために開催して應援の決議と同時に投票日公休の要求を決議せしめそのXXXXXXX要求を決議せしめることが必要である。又一般的に不平があつたために投票日公休の要求と産業的要求による動搖が生じたやうな場合は、積極的にXX會議の開催をXXして之を開催せしめねばならぬ。

組合統一運動の促進

この選挙戦を機会に、促進されつゝある各無産政黨の合同運動を支持し、選挙共同闘争委員會、選挙協定を支持して活動すると同時に従来戦はれ來つたところの各労働組合間の戦線統一を促進し組合合同の方向に向はせしめることが必要である。

1. 選挙協定協議會、共同闘争の絶對的支持、従つて凡ゆる行動を通してその協定候補の支持。
 2. 各無産政黨共同應援委員會の組織とそれへの参加。
 3. 労働組合出身の立候補には、その候補者の所屬政黨の如何に拘はらず、積極的に應援し、推薦狀を組合支部、分會等て出し應援辯士、運動員等を派遣すること。
 4. 選挙干渉及びブル政黨の選挙違反に對し共同の闘争を編成する様努力すること。
 5. 投票日の午後公休の要求運動及び上記共通要求等に依つて組合會議及び地方組合協議會を開催し、未だ組織されてゐない所は此機會に出来るだけ組織して協同の闘争をやるやうにする事。
- (——注意——アナ系の自由聯合組合等の参加せる所では技術的に巧くやる必要がある)

總選挙運動中に於ける活動組織

總選挙中は選挙の應援のために組合の常任委員會その他の活動機關から多くの分子が應援辯士として或は選挙運動員、XXXとして参加せることによつてその方の活動に抜かれるにも拘らず組合はこの期間一層多忙となる等の關係から組合は、その日常闘争のXXXX、演説等の大衆的動員に充分の力を發揮して

選挙闘争を戦ひ抜くために、XXXXXXを補充してXXXX部を設け、選挙期中の組合の全闘争を指導し、展開する機關とせねばならぬ。

XXXX部は評議會本部、地方評議會、組合、組合支部(地域支部)に設置する。而してその下に宣傳隊を持ち、これを活動させて闘争を遂行してゆかなければならぬ。宣傳隊は地方評議會、組合、支部に編成しXXXX部の統制の下に活動させる。XXXX部は宣傳隊を動員してXXXX、XXXXをなさねばならぬ。(終り)

以上の根本方針によつて選挙闘争は捲き起された。この方針によれば、社会民衆黨、日本労働黨と、出来得る限り闘争しないで、どこまでも「協定」しようとするのがよく判る。即ち労働組合出身の候補者に對しては所屬組合の——政黨の——如何に拘らず積極的に應援する。又對立してゐる場合でも最大限度にそれをさけるやうにすると決めてあるではないか。競争はしても對立した相手を暴露したり、攻撃はさし控へるのだ。これは評議會が彼等に對する闘争を中止したのでもなく勿論放棄したのでもない。評議會は自身の積極的な實際行動によつて、彼等の影響下にある大衆に、何れが眞實の味方であり、何れが無産階級の利害に忠實であるかを示し、闘争の過程に於て彼等の指導下にある大衆を切り離さうとしてゐるのだ。そのためには彼等に出来る限り接近する戦術が採用されたのである。

總選挙戦と日常闘争

總選挙戦の過程に於て、労働者大衆が著るしく闘争心を高めて居るXXXXXX、XXXXX、XXXXX、XXXXXをXXXX、XXXX、XXXX、XXXXとしてXXXXXし、之等を選挙闘争に参加せしめる事によつて政治的に教育訓練する事は、大切な仕事であつた。

ではこの方面では如何に戦はれたか?

本部の示した方針に基き、本部はもとより各地に「XXXXX」が設置された。

オルガナイザーは工場の隅々にまで入り込み目覚ましく活動した。日常闘争のためのスローガンはその地方、産業、工場の特種的要求と結びついて到るところに持ちこまれた。

かくて猛烈なるアジテーションを受けた労働者はふるひ立つた。闘争の激浪は次から次へと波及した。今それらの様子を知るために當時のニュースを読むことにする。

總選挙闘争ニュース (第一號)

各組合の活動を見よ!

労働党支部のXXX

司法XXX官の選挙違反を捕獲

函館六組合の勇敢な闘士の参加してあるXXXは、司法XXX官黒住成章が、乾分の高利貸を示唆して各方面に貸した借金のとり立てを利用して「魚心あれば水心、清き一票は黒住へ」と、やつたのを発見し、適確な證據を押へて検事局に告發した。然し刮目して見よ、黒住のXXXXXXXXXはXXXXXXXXXをよそにXXXXXXXXにするだらう。

神戸のオルガナイザ

XXX、従業員大會の煽動を開始した

神戸地方評議會は、この選挙を最も大衆的に組織的に闘ひ抜くために、七日夜二ヶ所て所屬オルガナイザー全部の會議を開催した結果、黨援金の募集、應援辯士、XXXXXXXX等々を分擔すると共に、投票日の午後を公休にせよ、及び吾々の切實なる要求を大衆の中に強く持ち込むために、職場會議、XXX會議開催のアツァーションに全力を擧げて活躍してゐる。

一千名、三十余工場の

ブラシ労働者總罷業す！

大阪に及ぶるブラシ労働者は、昨春の恐慌以來、賃銀値下、解雇等々のため極度の生活不安に襲はれ、

幾度かのXXXXXXXXとXXXとのXXXをケトパン、XXXXXXXXを開いて陣營を固めてゐたが、選挙戦の開始以來、労働政黨と組合の猛烈な活動によつて千餘の労働者は遂に總罷業に入つた。

労働政黨を勝たせるために

組合婦人はのこらず演説會へ！

——關東地方評議會婦人部の活動——

女にも選挙権を與へよ！

日給を二割値上せよ！

女を保護する法律をつくれ！

等々の要求をもつて労働政黨と闘つてゐる労働黨の候補者、南、唐澤、秋和君を勝たせよ！ 組合婦人部員は一人も残らず演説會へ！ と婦人部は猛烈な活動を開始してゐる。

同ニュース (第四號)

干涉、壓迫益々激し

XXXXを乗り越えて進む！

三重松坂の労働者は

十日を「公休要求デー」

松坂木綿、敷島タワシ、伊勢表整理産業組合工場従業員、松阪驛仲仕等は既に十日を「公休要求デー」として各職場に従業員大会を開く事を決定し三重合同××××××××労働者をアゲつてゐる。

大阪電気、擴大執行委員会をひらき

投票日の公休を電氣局に要求す！

各支部から参集した多数の委員諸君に依つて、(一)黨の基金募集に全力をあげる事。(二)勞農黨の候補者を勝たせよ！(三)演説會、應援隊、ピラマキ隊、等に活動分子を送れ、(四)投票日の午後を公休にして日給を出せ！等々が満場一致で可決され「投票日の公休」は直ちに電氣局に要求され、各支部は組合特別活動部の統制のもとに、以上の決議を直に實行にかゝつた。

同ニュース (第五號)

勞農黨の候補者が

争議の交渉をして呉れた！

——静岡山本印刷争議團勞農黨支持——

静岡でも勞農黨候補者の活動と、組合の××に依つて、労働者の日頃の不平は爆發し、先づ第一に山本印刷工場従業員がストライキを決議した。組合と黨支部は直に應援に馳けつけた。殊に候補者杉浦啓一君が激勵し、頑強な工場主に嚴重な交渉を行つたので争議團は労働者の代表は労働者でなければ駄目だ！全静岡の労働者諸君、勞農黨を支持せよ！と云ふ檄を数千枚撒布した。尙ほこのストライキに依つて全静岡の××運動が急速に進展しつゝある。

以上のニュースを通して日常闘争の遂行された一半は知れる。之等の闘争には直接、勞農黨の公認候補者と戦闘的プロレタリアが参加してゐるのだ。而して一方組合戦線統一を促進しつゝ、あつた。左翼運動がかくの如く活潑な闘争を激發してゐる時、中間派は只ボンヤリして居つた。そして勿論これに参加する事を嫌ひ、闘争の飛躍の前に狼狽した。然らば社民黨であるがこの方は徹底的に反對した。

「選挙の仕事だけで忙がしい、選挙が一段落するまではストライキはするな！」これが彼等のスローガンだつた。これは何より資本家の喜ぶところである。評議會の選挙闘争が、××××××をうけた事は言をまたぬ。言論は××され、集會は××された。筆者の運動員がしばしば行衛不明になり、又筆者自身立候補中に演説會場から××された事がある。かうした中を最初の方針通り我々の同志は戦ひ抜いたのであつた。

二、選挙闘争記

選挙区へ乗り込む

前項において見た如く我評議會の衆議院選挙戦に於ける闘争は、一定の方針に基き全国的な規模に於て活潑に展開された。

こゝで、私は私自身が候補者として立ち、闘争してきた経過に就て回顧してみなければならぬ。私が労働農民黨公認候補者として立候補したところは私にとつて第二の故郷たる大阪の第一區であつた。

大阪に着いたのは一月廿九日の午後五時近い頃である。

この時は既に私の選挙区には定員三名のところへ十名の候補者が現はれて、早くも戦ひの火蓋は切られておつた。

何黨の何人によらず選挙戦に臨む者が必用とするものは軍資金である。

殊に二千圓也の拱托金は是非共積立てなければ立候補することさへも出来ないと言ふことになつてゐる。これこそは支配階級が無産政黨の活動を困難に陥入れるために用心深くも決定してゐる所であつて、單に之だけでも我々にとつて大なる苦痛の種であつた。正直に云ふと私は今日まで二千

圓と云ふ大金を自分のものとして持つた事は且つて一度もない。それは時に何萬圓かの大金を現金で持つた事がないではないが、それは公金であつて、恰も銀行員や造幣局の労働者が札束や金貨を取扱ふのと凡そ同種類のものであつて、苦痛以外の何物でもなかつた。そこで今私が立候補するに當りその二千圓を拱托する事が非常な難事業である事は云ふまでもない。これだけでも普通選挙ではなく明かに制限選挙である。

今、私の懐中には、東京大阪間の三等汽車賃と、急行券と驛辨二本分の代金を百圓の中から差引いた残金があるだけである。而も私の懐中深く残つてゐる九十幾圓かは、今日以後凡そ一ヶ月に互る選挙期間中の、私自身の生活費——交通費、通信費をも含めて——をつぐなふにさへ充分だとは云へない位であつた。要するに私は今、二千圓の拱托金を積立て、一枚二錢五厘も三錢も要するボスターを選挙区全體の市街に貼り廻さねばならぬ選挙場へ、無一文のまゝで乗り込んだのであつた。

大阪驛の前には降りしきる冷たい雨をもいとはず五六十人の同志達が出迎へて呉れた。こゝで簡單な挨拶をして私達は、數名の幹部諸君と共に労働農民黨の支部聯合會へ行き、直ちに戦闘準備の打合せをした。これは至極簡單である。方針はすでに決定してゐるのだからこゝでの問題は各自の受持を決め、手配をすればいいのである。

選挙事務長は、去年府縣會議員選挙の時、その事務長の任に就いて色々の經驗をもつてゐるとこ

ろの澤田徳松君にやつて貰ふ事にし財政部の仕事は主として飯石豊市君が引受けて呉れた。その他萬般の手筈も遺憾なく決定した。ところで肝心な「二千圓」であるが、これは東京を出る前日、労働黨本部書記長細迫兼光氏が

「兎に角、現場へ行つて居れば、後から送金する」

と云ふ約束があつたので、待つてゐると約束通り同氏から小岩井淨氏の宅へ千五百七十五圓也を送つてくれた。この金に今少し足して二千圓の公債を買ひ入れる事が出来たので先づ第一の大難關は突破し得た。

陣容は整つた

かくて愈々段取りはきまつた。で、その二千圓の公債を以て拱托の手續をしに行つたのであるが、こゝで私は面白いことを見せつけられた。と云つたところで話して見ればクダラない事だが、「衆議院議員候補者」と云ふので到るところ實に驚くばかり深切なものだ。

日本銀行などは典型的な御役所式を發揮するところとばかり思つてゐたにそうではなかつた。私が飯石君と二人で拱托局から書類を買つて日本銀行へかけつけた時は、僅か六七分とは云へ規定の時間を過ぎて居つた。だから追ひ返される事だと思つてゐたのに中々さうではない。直ぐ書類を受け

附けてくれるばかりでなく行員自身が走り廻つて色々と面倒をみてくれた。又次に馳けつけた區役所では「サア、どうぞこちらへ……」と上等の椅子を持つて来てくれて茶を出す騒ぎだ。

もし之が外の用件で来たのであれば、癢に觸る程不愛相千萬なところだのにと考へる時「議員」と云ふ者が如何に優遇されるものであるかと云ふ事を切實に見せつけられた、いま立候補しやうとしてゐる現在すでに之れではないか、これでは「議員病患者」が滑稽なほど執着をもつのも無理ではないやうだ。

サテ手續は出来上つた。愈々候補者である。市全體には到る所候補者の氏名を現はした立看板を立てかけられてゐる。まるで看板の行列である。又ポスターはイヤと云ふ程貼り出された。中でも元大阪府の内務部長をしてゐた平賀周のポスターはよく目立つた。紫色で富士山を現しその下に「清き一票、清き平賀周へ」と書いてある。之が彼のスローガンだ。「清き平賀周へ」とはよくもすう／＼しく言へたものである。随分人を莫迦にしたやり方である。又板野友造は前に落選のウキメを見たので今度ばかりは是非共當選したいと考へたか眞紅なポスターを貼り廻した。榎谷寅吉のは「中央の政界に雄飛せしめよ！」と文字を書き飛行船が天空を雄飛してゐる所の美しい繪を現はしてあつた。石原善三郎は「強き一票、弱き私へ」と心細いモットーを出した。こ奴泣き落しの戦術に出たのだ。田萬清臣君は社民黨だが流石に労働者がすごい形相をしてゐる所を書いたポスターを貼

り廻した。これ等のボスターを見れば、それだけで規定の選挙費用を全部費消してしまひはしないかと案じられる位だ。かゝる賑々しいボスターの中に、野田律太の貧弱なボスターが「働かせろ喰はせろ！」「税金は資本家と地主に出させろ！」「田中反動内閣を××！」と叫んでゐる。

これで愈々戦闘開始である。

今立候補してゐる連中の中には且つて私達との間に何等かの交渉のあつた人が澤山ある。例へば板野友造は治安維持法を制定する時代議士であつた。私達が彼を帝國議會の應接室に訪問し、山本懸藏君と二人で同法案反対のための談判をした時、彼は熱柿臭い酒の息を吐きつ、「心配するな、治安維持法は労働組合には適用しないのだ。若しお前達がチャレたら、俺が断けつけて無罪にしてやる。俺の本職は辯護士だ！」と云ひ放つた人物だ。梶谷はストライキの仲裁によく飛び出した事がある。そして或る時は製材工場の資本家と結託して「使主和會」と稱する協調組合を作り、大阪木材労働組合の發展を妨害し、又一方に於てはそれを選挙地盤にせんものと腐心して居つた。羽室庸之助は彼れ自身の經營する羽室鑛鋼所の爭議でよく折衝をした。石原善三郎は日の丸電線製作所の社長をして居るために労働組合とは縁があつた。

かういふ工合だから「立合演説會」の時など、彼等を目の前に於て痛撃する事は彼等の正體曝露に都合がよかつたばかりでなく愉快なことでもあつた。

×××からのレボ（命令は絶対である！）

選挙戦は始まつた。

私が立候補して驚いた事は、意外なところに意外な後援者の澤山ある事であつた。七年も十年も昔、同じ工場で働いたことのある友人で今はスツカリ便りがなくなつてゐる者がよく訪問して呉れる事だ。

「やつぱり君だつたのか！名前が同じだからさうだとは思つたがマサカかうまで出世しとるとは思はなかつたよ」

舊友はよくこんなことを言つた。私は「出世」と云ふ言葉が妙におかしかつた。二十年前に同じ汽船乗り仲間で兄弟分のやうにしてゐた友人が「船長」になつて訪ねて来たこともあり、中には三十年の大昔に郷里を離れたきり忘れてゐた竹馬の友が名乗りを揚げてびつくりさすことさへあつた。

之等舊友は皆相當の社會的な地位を得てそれ／＼一家をなして居るのだ。さうした正直者は選挙違反を極端に怖れて居た。だから久しぶりに一杯呑む相談をするにしても隠れ廻る位だつた。

私は古い知己との會合がうれしくそれこそ萬障綜合してこの人達の招待に應じた。云ふまでもな

くこの人達は色々の援助をしてくれた。

目の廻るほど忙がしかつた準備が漸く整つて、いよいよ今晚から言論戦にかゝると云ふ日の午前
十時頃である。労農黨支部聯合會の事務所で演説の草稿を作つてゐた私の處へ一ツの妙なレポー
トが届いた。

「妙なレポート」とは、それはオブラードで作つた銃弾の形をしたもの、中へごく薄い三寸角位の
紙片を巻き込んだものであつた。この不思議なものを開けて見ると、

「本日正午來れ！ 命令は絶対である」

と紫色のインキで達筆に書いてあつた。署名は「關西オルガナイザー」としてその下に星形の印
が押してあつた。

後になつてハッキリしたのであるが、これが×××××關西地方委員長春日庄次郎君から發した
命令書だつたのである。

私はまだ×××××に關係はなかつた。従つてかやうなレポートに接したことは且つて一度もないの
である。それに「命令は絶対である」とキメツケられたのではそれがキザにきこえて一寸不安だつ
た。

私は兎に角行つてみる事にした。

此時のレポーターは、これも後に至つて判つたのであるが、池田隆君であつた。同君は京都帝大
醫學部を中途退學して當時日本農民組合書記及び無産者新聞大阪支局主任の仕事をしてゐた。そし
て云ふまでもなく×××××であつた。池田君に教へられた通りに上本町六丁目市電を降り赤十字病院
裏のやゝこしい露路の中で「西尾カイ」の表札を發見した。

春日庄次郎君と話す (×の關西オルグ)

案内を乞ふと、二階の廊下段に人の降りて來る足音がして高橋君が顔を出した。

この高橋と云ふ青年は、本名が千石龍一であることが後に判つた。高橋は大正十五年夏頃、渡邊
政之輔君の紹介で大阪へ來たのであつて、それ以來懇意にしてゐるが、彼は大正十三年十二月、春
日庄次郎君其他と共に×××××第一回留學生としてモスコウに渡り「東洋勤勞者共產主義大學」に
學び、大阪に來た時はあちらから歸朝早々である事がいつかしら判つてゐた。

私は評議會本部の東京移轉と同時に大阪を引揚げて東京に一年近く住んでゐるのであるが、この
僅かな期間に大阪の様子が大變かはつて居るのにしばしば驚く事があつた。例へば組合の事務所を
訪ねてもその中には見知らぬ青年ばかり居るやうなことがあつて、その若い人達から
「どなたです？」

等と訊問される事があつたり、時にはスパイと間違へられさうな事さへあつた。かくの如く労働組合運動の中へは新しい青年がドシ／＼入り込んで増加するのだ。で今、高橋がこの怪しげな二階から現れた時にもちよつと意外に思った。私の頭の中には彼れは泉州方面で活動してゐるとばかり思つてゐたからであつた。「變だな、こんな所で何してゐるんだらう？」と思ひつゝも、案内せらるゝまゝに二階へ昇つた。

二階は二室になつてゐて私の通された方は奥の三疊の間であつた。見るからに穩れ家らしい感じのする天井の低い汚れた粗末な家である。火の氣の少い火鉢を中にはさんで二人の青年が差向ひに坐つて居る。これが春日庄次郎君と喜入虎太郎君である。

私は今日までにこの兩君をよく知つてゐなかつた。勿論話があつた事などは一度もない。だが春日君が渡政君や山懸君等と共に總同盟の分裂問題に就いてその端緒を作つた人であるために名前だけは知つてゐる。喜入君とも直接には何の交渉もないけれども、同君が山名義鶴氏の秘書役になつてしかも國領伍一郎君や長尾他喜雄君と毎日の様に會合してゐた事は知つてゐた。

「山名の奴、い、秘書を抱へ込んだものだ」

なんて本部ではよく笑ひ話にした事がある。

かやうな工合でよくは知らんがマンザラ何も知らぬではなかつた。要するにこゝに居る二人の青

年は、「どこかで見たことのある男」であつた。それに案内役の高橋が私の信用出来る男なので少しは警戒をラクなものにした。

「お忙がしいところを呼び、けてすみません」

「全く忙がしいんだが用件があるのでですか？」

「實はネ……」

と、春日君が話しかけた。今その時の言葉を一問一答的に正確には記憶してゐないから要約して見るとかうだ。

「僕は×××のオルガナイザーである。今度君の選挙戦に就て僕達は極力應援する積りでゐる。だから君の方もその考へでゐて貰ひたい。本部から少々×も來ることになつてゐる。」

と言ふのだ。私は返事に困つた、私は今迄にかうも眞向から「僕は×××だ！」と言はれたことがまだなかつた。現在私は評議會の中央委員長である。ストライキの解決に就て資本家と會見したり検束や拘留事件があると度々警察へ交渉に行かねばならなかつた。で活動舞臺が相當危険な状態に在る者は努めて×××な仕事の内容を知らぬ方がいゝ。若し知つてゐると不用意の間にスパイ的な行爲をしでかすかも知らないのだ。私は常にさう考へて私自身の受持ち以外の事を「知つてはならぬもの」のやうにして來た。

「君、こちらへ来る前に東京で誰れかに會ひましたか？」

「誰れかには？」

「つまり×××の人です」

「イヤその様な人とは會つた事がない」

こゝで春日君は、

「野田が既に××になつてゐる事とばかり思つてゐたが話してみるとどうやらまだ××してゐないやうなので改めて勧誘して××にした」と裁判所では云つてゐる。

だが私はこの時ハッキリした答はしなかつた。と云ふのは春日が××なら評議會の本部で毎日毎夜机を並べて仕事をしてゐる同志——國領——杉浦、松尾、中村——諸君は全部そのメンバーに違ひない。現に今度東京を出發する時でも汽車の時間が切迫するまで松尾、長江兩君と私の宅で話し込んでゐた位だったのである。彼等は私に何もいつてはくれなかつた。

で今私は春日君と差向ひになつて話しつゝ、も別にこの二人——春日と喜入——を怪しいとまで疑はぬにしても充分見當がつかなかつた。私達は幾多の場合軽卒なことをしてひどい目にあつた經驗を持つてゐる。だから常に用心深くする必要があつた。

殊に我國の現情から考へて「×××」に加盟するためには相當の決心が必要である、で私は×に

勧誘されるなら評議會の本部で毎日働き共に同志として生死を誓つてゐる人から話しかけて貰ひたかつた。さうした氣持ちからこゝでは何とか返事を延しておいて、東京へ歸つてからよく考へて見たかつた。私のこゝうした態度が春日君にも通じたとみえて、春日君は自分を信用さすためのよう「實は君の選舉事務長になつてゐる澤田徳松君も今こゝへ来ることになつてゐるのだよ」

と云つた。私はこれで又吃驚した。元來、澤田君と云ふ人は、×××員として適當な人柄ではない。(澤田君怒るな!) 澤田と私は随分古くからの友達であるが、澤田は、なるほど勞働組合の幹部としては非常に優れた良いところがある。事務的な才能もあるし犠牲心も強い闘士ではあるが、彼れは職長的な親分肌のところが多分にあつて少しも理論的ではなく案外あきらめが早く「檀那はん、すみまへなんだ。わてが悪るおました……」と云つた調子になりやすいのだ。ところでこの澤田君が「命令は絶対である」と云ふレボで呼ばれるやうなら既にメンバーになつてゐるに相違ない。

かう云ふ風で、人々の性格を充分に見抜かないで×の勢力を量的にのみ擴張する事は××××××××。澤田が××ならあのAもBもCもDも或ひはメンバーになつてゐるかも知れない。一年近い留守中の深刻な變化に一種の戦慄を禁じ得なかつた。××が×の機關からの命令を受ける場合、その「人柄」なんかは問題ではあるまいが、何も知らぬ者は、はじめて名乗りを揚げられる時、滿

「何か喰はうか？」

「牡蠣が喰いたひなあ……」

で二人は千代崎橋の下の牡蠣船へ入った。

こゝで金子は私に角封筒を呉れた、中には百圓紙幣が三枚あつた。

「何所からなんだ」

「知らんよ、只渡して呉れつて云はれたんだよ」

私はその角封筒をそのまゝ、ポケットへネジ込んだまゝ、なほ色々話し合つて、その夜、その頃地方から大阪へ来る同志達の宿屋のやうにしてゐた飯石君の家に二人共泊つた。

その翌日金子は「清原一隆君（通稱西光萬吉）」と近内金光君とに君のと同じ封筒を渡したいのだが、「いゝ方法はない？」と聞いたから「それは日本農民組合本部へ行けばよく判るだらう」と教へて、私も同行した。清原は奈良で立候補中であり近内は兵庫の候補者だつた。金子はこの日岡山で立候補してゐる難波英夫君のところへ應援に行つた。

この「三百圓」が後になつて（三、一五事件で起訴されて）重大問題となり検事廷でも豫審判事の取調べの時にも随分追窮されたが、私はそれを受取る際、金子からその出所に就て深く聞きたださなかつたのでどうにもしやうがなかつたのだ。私は最初立候補する時から「金のことは何處からか寄

附があるだらう」位にしか考へてゐなかつた。ところが此金は實は××本部から×公認候補者に

送られる金であつたのだ。何でも北海道の山本懸城、東京の唐澤清八、南喜一、静岡の杉浦啓一、奈良の清原一隆、兵庫の近内金光、岡山の難波英夫、福岡の徳田球一、大阪の野田律太等がそれぞれあつたさうだ。私は當時その様な重大な性質の金だとは夢にも知らなかつた。この點で清原君も私と同様だつたとみへて労働黨本部へ「領收書」を送つたさうだ。

私は選挙事務長の澤田君に「東京から三百圓きたから使つてくれ」と云つて渡して置いた。そしてこの金は澤田から國領已三郎君に渡り特別活動費として有効に費消されたやうだ。私には勿論判らんがいづれは、謄寫版の購入費になつたり紙代になつたことだらう。

××會議？——私は黨員？——

投票日が間近く迫つた日のことである。

「今時會合があるから演説會が終り次第俺の宅へ来てくれ！」

澤田は、私が選挙本部を出かける時、耳うちした。私達の最初の申し合せでは、度々會合を持つて運動の批判をすることになつてゐた。例へば演説會があるとその時の辯士について演説の内容、筋のはこび方、態度、聲量、時間の長短等一つ一つその可否を批判するのだ。同志だからと云つて

あまり不遠慮にボロクソにヤツツケるのもよくないが、缺陷をそのままにしておく事はよくない。でお互が親切に申告し合はうではないかと云ふのが主旨である、而もこれは私が主唱者であつた。ところが私は難用が多くてトアモかゝした會合に出る暇がなかつた。しかし今日は演説會も二ヶ所しかないから是非共出席すると約束した。

川口小學校の演説會を終つた私は、明日開く演説會のためのポスターを徹夜して貼つてくれる若い同志諸君に感謝しつゝ、澤田君の宅へ行つた。私は自分の選舉事務長をしてくれる澤田の宅へはこれが最初である。一度訪問したいと思ひつゝ、そのまゝになつてゐたのであつた。

澤田の宅には妻君が留守番してゐるだけで誰もまだ來てゐなかつた。

やがて澤田が歸り、その直ぐ後へ國領已三郎君が來た。それからしばらくして黒川健三君が來た。國領已三郎君は國領五一郎君の弟で中々しつかりした前途有望な青年である。黒川君は大阪外語學校在學中、例の京都學生事件に連坐した人で目下保釋中であつた。そして當時は勞農黨大阪支部協議會の書記長をして居つた。

會合した者は右の如くで私をも加へて四名である。私の考へではもつと澤山な人（辯士、運動員等々）が來ることとのみ思ひ、心待ちに待つてゐるうちに時間はドン／＼過ぎて夜は更けた。この會合は、だからいつ始まつたと言ふわけもなく國領と黒川との間に討論がはじまつてゐたのであつ

て、「議論の中心」は××××の問題であつた。

「×××ではこんな時にどうしたんだらうか？」

「スパイなんて××××後警視廳の××××を××××して見ねばハッキリ判るものではない」

「兎に角我々は指令通りにやつて居ればいゝんだらう。しやうがないぢやないか。」

かうした言葉が交換されたりした。私はそのかたはらで夕刊を見て居つた。

話は國領と黒川との二人でダラ／＼長引くばかりで何等まとまつたこともなかつた。

私は豫想に反した會合ではあり非常に疲れても居つたので之以上夜ふかししては明日聲がでなくなるやうな氣がして來た。で、

「各工場にそれ／＼適當なアヂピラを撒く事には勿論賛成する。そのためには正確な調査は必要だ。だが今日もつと必要なことは選舉本部にウズ高く積まれてゐる既成のピラを早く處分する事だよ。新らしく作ることはかり川談しても有効に使用しなければ何にもならんぢやないか！」

と云つた。

「それは合法的なピラの事だらう？」

「無論合法的なピラだよ、合法的なピラはいけない、撒布する必要など君等も思ひはしないだらう。第一勿體ないぢやないか！」

さう云つて私は私の宿へ歸つた。

何でもない會合、寧ろ流會した會合だとばかり思つたこの會合は、實はXの細胞會議だつた。その事がのちに判つた。即ち私達がX×X檢舉(三、一五事件)の時、被告として調べられた時の中心の三點は、第一に「命令は絶対である」と云ふレボで春日に會見した事、第二、金子健太君に三百圓貰つた事、第三、この日の會合——細胞會議——であつた。

若し私がハッキリしたX×XであつたならばXの立場から積極的な活動をしたであらう。それは演説の内容にも變化がある筈である。又全く關係がなければ以上三ツの問題は起らなかつたであらう。こゝの所はまことにデリケートな關係になつた。

私は當時「政策的」な點からでもX×Xな運動に關係せぬ方がいゝと考へてゐた、それは合法的な評議會の左翼的活動のカムフラージュの上からも必要なことだと信じてゐた。そして私がさうであつたところで左翼運動に寸毫の障害にもならぬ確信があつた。だが私の心から尊敬出来る同志からの話があれば、懲役二年、執行猶豫と云つたやうなケチな判決を受けない結果になつてゐたであらう。

選挙運動は投票日が近づくに従ひ猛烈な彈壓を受けるに至つた。しかしそれは豫期した以上のものではなかつた。長年住み馴れてゐた大阪も、自宅が東京に移轉した今日、こゝも旅の空であつた。

幾多の不便もあれば、心から落つける休養の場所もない中で、一心不亂に私達は奮戦力闘した。

三、選挙戦の結果

労働黨二名當選

サテ、二十日間の猛烈きはまる選挙闘争の後、やがて總決算の日は來た。

此の闘争の期間に於て労働者大衆の不满反抗は激發されるものすごいストライキが各方面に勃發した事は前掲の「ニュース」によつてもその一半を知る事が出来るのであるが、選挙協定に基く「共同候補」の應援、及び暴壓反對のための共同闘争等が契機となつて組合統一運動の方面も著るしく促進せられたのであつた。而してかやうな闘争——評議會の闘争方針——が充分に展開された處ほど支配階級の壓迫干渉が峻烈をきはめ、破廉恥に強化されたのであつた。かうした點では私の立候補した大阪は上乘なものではなかつた。

開票の結果は、私の分は三千二百九十八票の少数であつて美事(?)なる落選であつた。だがしかしそれは二千圓の拱託金をまで沒收される程の成績ではなかつた。

全国的な形勢を見れば

れて大阪の×××に居るのであつた。

机の上には百通以上の書信が山のやうに積み重ねてあつた。それを一一讀まねばならぬかと思ふと疲れてゐる私には怖ろしいもの、やうでさへあつた。これ等の手紙の中には郷里の（岡山縣兒島郡小串村）村長さんからの激勵文もあつた。面白いのは同じく大阪で落選した政友會、民政黨、實業同志會等の連中から「今度はお互に武運拙なく落選したが、この次には捲土重來を祈る」と云ふのもあつた、ブルジョア社會の「禮儀正しい」には恐れ入つた。

翌日からは評議會本部の仕事で忙がしかつた。「労働者農民の××を作れ！」と云ふスローガンはよかつたねえ。」と杉浦君はニコ／＼してゐた。「俺は選挙で時計を儲けたよ。唐澤君はクローム製の時計を見せびらかした。

彈壓は愈々ハゲしくなり建國會の連中はしば／＼本部へ暴れ込んで來た。

選挙中の臨時本部組織を復舊するための常任委員會に於て次の如きステートメントを發表した。

總選挙を経て組合員諸君に告ぐ

中央委員長 野 田 律 太

親愛なる我評議會の組合員諸君！

我が労働階級最初の経験である國會の總選挙は、田中××政府の労働政黨に對する大暴壓の中に終了した。

選挙の結果は豫期の如く××××の政黨たる政友會及び民政黨が議席の大部分を折半し労働政黨が獲得した議席は僅かに八個を數ふるに過ぎない。

然しながら労働政黨は斷じて資本家地主黨に敗戦したのではないのだ。普通の名を以て呼ばれる此の選挙法が如何に多くの法律的制限を以て無産階級の選挙運動を妨害してゐるか、更に警察を通じて行はれた××××××の數々を見よ！ 而もブルジョア政黨は政友も民政も労働政黨候補者の狭撃に就て相策應せるのみならず公然と××××の他の××××をやつてのけたではないか。斯かる妨害、彈壓の中にあつて選挙闘争には極めて未熟なる労働政黨がたとへ八名と雖も、議席を占有した事は、勝利に向つての第一歩であらねばならぬ。

我が評議會が昨年の全國大會に於て獻身的支持を決議した労働農民黨候補の當選は社會民衆黨に比べればその半數ではあるが、此の事は労働農民黨が決して労働大衆の信頼の外にある事を示すものではない。××××政府は彼等の利益に最もよく闘争するものに對しては最も暴虐なる彈壓を加へるのだ。労働農民候補者の演説會は常に中止攻めを喰ひ、解散を以て蹂躪され、檢束を以て妨害され満足に終始したものは一回

としてない。しかも労働農民黨の得票は全国を通じて十九萬を突破し當選者の少數にも拘らず、労働大衆の偉大なる政治的進出はブルジョア新聞をして恐怖せしめたてはないか！

又我が評議會組合員にして立候補せる私他四名は何れも當選には到らなかつたが、皆相當の好成績を収めてゐる。そして我が評議會が總選舉闘争に参加した所以のものは、労働代議士の製造のみが目的ではなくして實に(一)××及び資本家に對する日常闘争の激發、(二)労働組合戦線の統一、(三)未組織労働者の組織、(四)ブルジョア××の曝露、(五)労働政黨と組合との關係の強化、等々が重要な任務であつた。諸君は我が評議會が今回の選舉闘争の中に於て労働政黨支持のあらゆる行動と共に以上の任務に對しても最も勇敢に戦ひ、多大な成績を挙げ得た事を本紙ならびに選舉中時々發行せるニュース等によつて充分知られてゐる事であらう。

我が評議會全國の組合員諸君！

労働農民黨は總選舉戦に於て断じて敗れたのではない。然しながら労働大衆の投票の壓倒的多數がブルジョア政黨に投ぜられてゐることは、未だ多くの労働大衆が政治的にも精神的にもブルジョアの支配下にある事を物語つてゐる。我が評議會は今後一致して果敢なる日常闘争を行ふ事によつて大衆をブルジョアの支配下から奪還し、來るべき總選舉戦に於ては労働階級の投票は全部を労働農民黨に集中し、ブルジョア政黨を徹底的に粉碎しなければならぬ。そして之は我が評議會が今回の選舉闘争によつて一層激化されたる労働大衆の要求を一層××して一、失業手當法をつくれ二、日給二割を値上げせよ三、健康保險法を改正せよ四、八時間労働法をつくれ五、團結とストライキの權利を與へよ。

等の要求貫徹のために先頭に立つて戦ひ、之を又労働者大衆の強固なる要求とさせなければならぬ。又この日常闘争が廣汎なる労働大衆の参加を得て強力に闘はれるがためには労働組合戦線の統一が絶対に必要である。我等は選舉闘争中各地方にて他團體との間に行はれた共同闘争の基礎を確保して日常闘争の共同を行ふ事によつて必ず全国的な統一戦線を作り得るであらう。

更に選舉演說會××會議等にて労働組合に近づいた多くの労働者諸君を労働組合に組織するため地域的に産業的にあらゆる會合及び宣傳をしなければならぬ。そうして未だ労働農民黨に参加せぬ組合員諸君を動遊して労働農民黨を強大にし労働階級の勝利に向つて突進しなければならぬ。

(労働新聞五十一號)

第二十章 三・一五事件

一、大檢舉前奏曲

××隊の××

評議會本部常任委員会は、總選舉戦後の本部事務が一應整理されると直ぐ全国的引締め運動を開始する事にした。

労働組合の活動は、選挙闘争と結びつけて組合勢力の擴大強化をはかることにはなつてゐたが事實上「選挙闘争」の方面にかたよつて多かれ少かれ組合運動の方はダレ氣味になつてゐた。例へば京都であるが、京都では二人の代議士を得る位、選挙戦では優秀な成績をあげてをりながら組合運動の成績はあまり變化はない。

そこで先づ關西方面の引締めのために杉浦啓一君と私（野田律太）とが出張することになつたのである。

杉浦君は本部組織部長として行くのだが、私は大阪で立候補してゐたから、選挙中に色々世話に

なつた同志に対する御禮も云ひたいし、又選挙戦を振り返つて批判したいこともあつた。要するに選挙戦では惨敗したがこの惨敗の經驗を生かして明日の勝利に向ふ糧としたい念願があつた。それから今一つの用件は私の郷里（岡山縣兒島郡小串村）に労働黨の支部が組織されたので、その發會式に是非共出席すると云ふ約束があつたことだ。

私が郷里を出たのは十三歳の時で、兵隊になる時一度歸つたことがあるがそれからでも既に十七年間過ぎてゐる。で、もうすつかり郷里の人からも忘れられてゐたのであるが、今度の選挙で少しは思ひ出されてゐるところへ更に同志難波英夫が私の郷里を地盤にして立候補したから私は推薦狀を送つた。

かやうな次第で百年一日の如く變化のない村に労働黨支部の旗が立つことになつたのである。私は私の村に階級的黨の支部が出来たことを大變愉快に思ひ、全く「天にも昇る」喜びをもつて久しぶりに歸國する日を待つた。豫定表は次の如くである。

三月十日 杉浦君先發、京都に寄る

十二日 午後野田律太大阪着、夜、大阪地方評議會事務所にて選挙運動に關係した者全部の會合

十三日 選挙事務所にて用した家庭を訪問し夜は雑誌「労働者」の原稿を書く

十四日 神戸の演說會に出席

- 十五日 神戸地方評議會の會合
- 十六日 大阪地方評議會の會合
- 十七日 杉浦君は京都へ、野田は岡山市着、勞農黨支部聯合會訪問
- 十八日 小串村勞農黨東兒支部發會式列席
- 十九日 宇野町演說會出席
- 二十日 倉敷市演說會出席
- 廿一日 岡山市演說會出席、夜行列車にて東京に歸る

以上の豫定に従つて私が大阪驛に降りると杉浦君が改札口のところで待つて居つた。

「京都は案外い、やうだ。辻井民之助も改心するだらう。よく談しておいたから……」

杉浦はすぐ仕事の話をした。飯石君の宅へ荷物を預けて大阪地方評議會本部へ行くと、すでに五十人ばかりの同志が集まつてゐた。

選舉事務長をしてをつた澤田徳松君が開會の挨拶をした後で私が三十分ばかり選舉中の感謝と全國的な形勢に就て話した。それから杉浦君が起立して、演說口調を以て組合運動の「引締め」のための話しをしかけた。

その時である、(午後八時だつた)事務所表入口の方が急に騒がしくなつた。

「無届集會だから解散するのだ！」

「除けつたら除かんか！」

「××するぞ！」

階下では頑張つてゐる様子である。此頃集會を持つ毎にきまつた様に×××の××があるのだつた。「またか！」と私達が顔見合した時、飯石と澤田が階下へ降りた。杉浦はいさいかまはず話をつづけた。

階下では飯石と澤田と×××の聲が重なり合ひ入り亂れて段々大きくなつた。

「無届集會だ！」

「無茶云ふな！」

「除け！」

「待て！」

「××の××だ！」

「××で誰れのコツチャ、××かい！」

「除け！ ××××ぞ！」

「待て〜お前なんかはカフェーへ行つて『××××××！』と云ふかい！」

「理窟を云ふな、除け！」

しかしながらこれだけでは×××××——博徒、詐欺漢、窃盗、強盗、不良青年、殺人犯人等々——を×××××（？）に立たすことが出来ぬから×××××（？）のために「都々逸」や「安来節」を×××××。これでこの連中は××××××××××になり××××××××。

「おかげで廿日振りに××××××××××ました」

「××××××××××、責任は俺がもつ！」

「それじゃ一つ伊勢音頭をやりませう」

「よからう！」

「×××！」

「×××××！ ×××××！」

××××××××××なつて××××××××××ならなかつた。

その翌日、即ち三月十六日だ。私は一人だけ××××××××××れた。×××××の外には澤山な×××××で垣が出来てゐた、この物々しい光景に私は愈々「變だな？」と考へた。

「變だな！」とは思つたが何のことか少しも見當がつかなかつた。×××××の前に用意してある自動車に乗せられた私の兩側には××××××××××てゐた。自動車は阪神国道に出て真直に大阪へ向つて走つた。

「どうでも勝手に×××××！」

と諦めはしたが、私の頭の中では「岡山行き」の豫定が氣にかゝつてしやうがなかつた。

大阪驛前の×××××へ着いたのは午後四時近い頃だつた。

この×××××へ這入つて私は吃驚した、と云ふのはどの×××も×××室も同志諸君で充滿してゐるではないか！

「オーイ、どうしたんだ？」

「どうもしないよ、×××××から×××するんだ」

「變だなあ——」

「十二日に事務所で作られたきり×××ないんだ。それに又昨日×××××を張つて澤山×××××らしいぜ」

「變だな？」

「全く變だよ、ストライキもないし×××なんかもない筈だがねえ」

「何かやつたんだらう……？」

「心當りはないなあ……」

私は選挙が終んだ直後、同じく落選した社民黨の田萬君から

口するから……」

私は××がどうせ長びくであらうことを知った。だがそれはいい、としても岡山行きが駄目になることが先方へ對して申しわけなく、苦痛だった。

このことで×××の××と交渉したがどうしても電報一本打つことを許してくれなかつた。で最後の手段として××更新のために×××の室へまで出た時、ある反動團體の男が遊びに来てゐるの××××××××××××した。

翌日は又若い同志諸君は×××で別な諸君と入り代つた。かうして交代がある度毎に新しい形勢が判つて來た。

若い多くの同志諸君は、不用意の間に××されたのであるから小遣錢をもつてゐなかつた。甚だしいのは一錢も持つてゐない人もあつた。私は郷里へ歸ること、旅行が相當長期に互るので五十圓ばかり持つてゐた。だが今では豫定は壞されてしまつたので、金はも早いらなくなつてゐた。で、小遣錢を持たぬ同志諸君に一圓、二圓、三圓と分けてやつた。××の退屈な日がつゞく。

二、嵐のあとの戦線

突然××されて東京に歸る

×××××の退屈な日が八日つゞいた時、突如「東京へ直ぐ歸る」ことを條件として私はこゝでも一人だけ××されることになつた。

たゞの一度も取調べを受けしないで放還される事は氣持のいいものではなかつた。神戸の時の例があるから外へ出ると直ぐ護衛つきで東京へ送られるのではないか？と思つたが此際少しでも變化があつて欲しかつた。ところが表へ出ても別に××も着かない。だがどの様な××××××××があるか知れぬので直ぐ通りかゝりのタクシーに飛來り飯石君の宅へ行つた。飯石君は不在だった、留守居の妻君は

「家宅搜索であんたの靴も×××よ」

と云つて私の荷物を出してくれた。私は身に着けて居た一切の物を洗濯して貰ふ様に頼んでおいて直ぐ入浴し理髪した。

その夜、あるカフェーで大橋治房君と岸野重春君に合つた。外に残つてゐる連中は「×××」を持つて活動してゐるらしかつた。

「東京へ歸つていゝのかどうか？」

私は私の行動に就て、産業勞動調査所の野坂龍子氏に問合せの電報を打つた。すると折返して

見ても嵐の跡と云ふ感じである。

上村辯護士の宅を訪ねると二階に細迫書記長と農民組合の山上武雄氏その他自由法曹團の人が二人居つた。

「で、このまゝにして置きますと香川県は全滅の外ありません。此際是非一つ御盡力願ひたいものです……」

「それぢや、山本宣治さんに御苦勞願ふことにしますか」

「さう願へますれば結構なんです。あまり山本さんを使ひたて、氣の毒ですが、此際ですからどうぞ一つ」

「直ぐ電報打ちます」

「何しろ×××方針では香川と新潟を徹底的に×××××……」

「……」

それから雑談になつた。

「今頃野田君にあへるとは思はなかつた」

「僕大阪と神戸とで××され、又大阪へ送られて二三日前に釋放です。もうすつかり試験済ですよ」

「さあねえ、表も裏も×××で詰つてますよ」

「さうらしいですねえ……」

「相變らず君は香氣だよ、注意したまへ」

「だつて注意のしやうがないじゃありませんか。逃げ隠れせねばならぬやうな事をしたことはないしや」

「はつははは」

「はつははは」

「まあ、お互にしつかりやるさ、朝鮮に比較するとらくなもんだよ」

私は此處で、細迫書記長と警視廳へ「××××」の抗議に行く時間を約束した。

此時分、松尾、杉浦、片山、藤沼、南、等々凡そ三十人位は×××××へ收容されてゐた。救援會の活動は目覺しく差入の物品を集めること、寄附金募集に一生懸命だつた。

私がちよつと外出してゐる留守中に評議會本部は又荒されてゐた。

「今三人連れて行かれました。廣島から來てゐた人は××××××××××かけられましたよ」

それは廿五六歳の色の黒いガツチリした男だつた。私は彼が國元を逃けて來たのではないか、若しさうだとすれば本部に居ることは危険だと考へて注意したが、本人は「心配はない、俺は勉強しに來たんだ」と強く云つたのでそのまゝにしておいたのである。

「何れにせよ、中央委員長」が本部に居ることは此際非常な都合だつた。この名に依つて「本部の健在」を示し地方の陣容を立直すことは緊要なことであつた。

本部の壁にはマルクスの肖像画とレーニンの寫眞が掲げられ、机の上には手入の行届いた騰寫版印刷器が艶々と光つてゐた。

この日——三月三十一日——細迫氏に用事があつて労働黨に行くべく御成門のところまで歩いた時、自動電話の後から青年同盟のM君がヒョッコリ出た。

「どうしてるんだ？」

「難波さんを捜してゐるんです、知りませんか……」

「マルクス書房の難波さんか？」

「へエ、さうです」

「こんな所には居ないよ」

「困つたな……」

「一體どうしたんだ」

「青年同盟のパンフレットの原稿が出来たのです。それを渡したいのと金が欲しんです」

「ちよつと見込はないよ、中々遣へないだらう」

M君と私とは直ぐタクシーに乗つて三越へ行つた。食堂で「赤飯」を喰ひつゝ、色々話した後、この際私は手放してはならぬ十圓札を半分にしてM君に五圓やつた。

「寝る場所はあるのです」

さう云つて元氣よく階段をかけ降りるM君の後姿は尊いもの、様であつた。

四月一日の夜である。疲れ切つて宅へ歸ると五年生になつた浩一の枕元には新學期の教科書が積み重ねてあつた。新鮮なインキの匂が漂つてゐる中に小さい寢息がすやくとして可愛いかつた。

私は明朝印刷する指令の原稿を書いてしまつて眠りについたが中々眠れなかつた。

「お前にだけ可愛い、子供があるといふのか」と云ふやうな言葉が消えたり聞えたりする氣がした。

朝五時打つたばかりの頃、家の周圍に人の來た氣配がし

「あなた×××よ」

きみ子はすでに起きてゐた。

「判つてゐる！」表戸を叩く音がした。

表には度々××したところのある××××××と少しはなれたところに××××××××××居つた。

「馳けつけて行く程の用事でもあるまい、しばらく待ちたまへ」

この頃では共産黨事件の経過及び被害の程度もや、明かとなつてゐた。それによると評議會、勞農黨、青年同盟等がそれ／＼大打撃を受けてゐるが、しかし「嵐は強い樹を作る！」と考へて淋しい氣は起らなかつた。

同じ保護室で毎日退屈な日を送つてゐる岡島は次第々々に考へ込んでしまつた。時々には明かな顔色になることもあるにはあるが、急に又暗い顔になつた。

彼は今、一生懸命に「考へねばならぬこと」があつたのである。

ところがある日突然、岡島は×××に廻された。岡島の單調な生活の上に何かしらん變化が起つたのである。

「元氣でやれよ！」

「よし、心配してくれな！」

私は之で煩悶してゐる彼の苦しい顔を見ることから救はれた。岡島がゐなくなつて間もなく澤田が前の事件（東洋紡績三軒家工場のストライキ中に起つた騷擾罪、一年二ヶ月）の裁判が確定して下獄してしまつた。

これで留置場に残つたのは私一人である。話相手がなくなると退屈さは倍になつた。

留置場の中で三團體の解散を知る

四月十日である。春とは云へ細雨降りしきるうすら寒い日であつた。午後四時頃毎日々々の例になつてゐる「××××」のために留置場を一度出て高等係の室へ行つた。この××××××××「××××」は、だが私にとつて唯一の愉快な時間であつた。この室へ來ると机の上に各種の新聞が積み重ねてあるのだつた。此際それを見ることは何よりも嬉しいことである。

私はこの日も室へ這入るとすぐ新聞をひろげた。ところがどうだ！ 今日の新聞には、×××、××××、無産者新聞、國體の××、治安維持法、某巨頭、五色温泉、田中義一、鈴木喜三郎、等等々々何れしろ馴染深い文字が初號活字でデカ／＼と全紙面に跳つてゐるではないか！

細迫書記長の寫眞がある。中村鈴子君の寫眞がある……。

あつ！ 評議會が解散された！ 勞農黨も青年同盟もやられた！

「やつたな!!」

私は叫んだ。體の關節がワナ／＼と震へた。頭の中がグラグラグラッ！ とした、むさぼるやうによむ一字一句が犇々と胸に焼き付くやうであつた。

「——結社日本勞働組合評議會は治安警察法第八條第二項の規定により之を禁止す」

××でも××だ！